

2023年度

コミュニケーション学部「演習」概要

I. この冊子には、2023年度に開講予定のコミュニケーション学部「演習」に関する内容が記載されています。

「総合教育演習」（総合教育科目）は含まれません。

II. 定員は、原則として15名です。応募人数が定員未満であっても、原則として選考を行ったうえで履修許可者を決定します。

III. 2023年度「卒業研究」（2023年度4年生対象）の指導範囲・履修条件については特に記載がない場合、「演習」の指導範囲に準じることとなります。

IV. 4年次「卒業研究」の履修は、2年次および3年次における「演習」での学習が前提となります。

2023年1月

東京経済大学 コミュニケーション学部

2023年度 コミュニケーション学部「演習」について

1. 募集定員

(2023年1月現在)

No	科目名	対象学年	担当教員	定員	2年許可	3・4年許可	3月ゼミ選考 募集定員
2	演習	2年	大岩 直人	15	12		3
3	演習	3・4年	大岩 直人	15		11	4
4	演習	2・3・4年	大榎 淳	15	0	1	14
5	演習	2年	大橋 香奈	15	16		募集なし
6	演習	3・4年	大橋 香奈	15		16	募集なし
7	演習	2・3・4年	大尾 侑子	15	9	10	募集なし
8	演習	2年	北村 智	15	18		募集なし
9	演習	3・4年	北村 智	15		18	募集なし
10	演習	2年	北山 聡	15	8		7
11	演習	3・4年	北山 聡	15		13	2
12	演習	2年	小林 誠	15	5		10
13	演習	3・4年	小林 誠	15		11	4
14	演習	2年	駒橋 恵子	15	16		募集なし
15	演習	3・4年	駒橋 恵子	15		4	11
16	演習	2年	小山 健太	15	10		5
17	演習	3・4年	小山 健太	15		15	募集なし
18	演習	2年	佐々木 裕一	15	1		14
19	演習	3・4年	佐々木 裕一	15		5	10
20	演習	2年	柴内 康文	15	2		13
21	演習	3・4年	柴内 康文	15		10	5
22	演習	2年	田村 和人	15	17		募集なし
23	演習	3・4年	田村 和人	15		14	1
24	演習	2年	中村 忠司	15	13		2
25	演習	3・4年	中村 忠司	15		15	募集なし
26	演習	2・3・4年	中村 嗣郎	15	0	5	10
27	演習	2・3・4年	長谷川 倫子	15	0	0	15
29	演習	2・3・4年	林 剛大	15	15	0	募集なし
30	演習	2・3・4年	町村 敬志	15	4	9	2
31	演習	2・3・4年	松永 智子	15	10	9	募集なし
32	演習	2・3・4年	光岡 寿郎	15	4	4	7
33	演習	2年	南 隆太	15	0		15
34	演習	3・4年	南 隆太	15		11	4
35	演習	2・3・4年	本橋 哲也	15	1	3	11
36	演習	2年	山下 玲子	15	20		募集なし
37	演習	3・4年	山下 玲子	15		17	募集なし
38	演習	2・3・4年	山田 晴通	15	1	0	14
39	演習	2・3・4年	ピーター・ロス	15	2	0	13

555

184

201

196

●「演習」の定員は原則15名ですが、教員の裁量で15名を超えて募集する「演習」もあります。

●『募集なし』の「演習」は、ゼミ希望登録の受付を行いません。

2023年3月から始まるゼミ希望登録のスケジュール等

*既にゼミの履修許可を得ている学生は、3月実施のゼミ希望登録をする必要はありません。2023年度にゼミを2科目履修したい場合のみ、申込をしてください。ただし、在学期間中「演習」を合計で3科目まで履修できます。

*コミュニケーション学部は、4年次に必修科目である「卒業研究」があります。

「卒業研究」の履修は2年次および3年次「演習」での学習が前提条件となりますので、必ず2・3年次に「演習」を履修してください。

2・3年次ともに「総合教育演習」（コミュニケーション学部以外の先生の担当科目）のみ履修の場合、4年次に「卒業研究」を履修することは極めて困難です。

(1) 日程

選考日程		
第1回	選考予定一覧公開 (日時・選考方法)	2月24日(金)～ TKUポータルのお知らせで『演習(ゼミ)選考予定一覧』を確認してください。
	希望登録	3月13日(月)9時～15日(水)24時 TKUポータルの[成績・履修]画面右のサブメニューに3月13日以降(希望登録期間)に表示される「ゼミ希望登録・結果参照」から登録してください。
	選考一覧公開(場所)	3月17日(金)～ TKUポータルのお知らせで『演習(ゼミ)選考一覧』を確認してください。
	選考実施期間	3月17日(金)、20日(月)・22日(水)
	選考結果発表	3月27日(月)9時～ TKUポータルの[成績・履修]画面右のサブメニューの「ゼミ希望登録・結果参照」で発表します。
第2回	選考予定一覧公開 (日時・選考方法)	3月27日(月)～ TKUポータルのお知らせで『演習(ゼミ)選考予定一覧』を確認してください。
	希望登録	3月27日(月)9時～28日(火)24時 TKUポータルの[成績・履修]画面右のサブメニューに3月27日以降(希望登録期間)に表示される「ゼミ希望登録・結果参照」から登録してください。
	選考一覧公開(場所)	3月30日(木)～ TKUポータルのお知らせで『演習(ゼミ)選考一覧』を確認してください。
	選考実施期間	3月30日(木)・31日(金)
	選考結果発表	4月4日(火)9時～ TKUポータルの[成績・履修]画面右のサブメニューの「ゼミ希望登録・結果参照」で発表します。
第3回	選考一覧公開(日時・選考方法・場所)	4月7日(金)～ TKUポータルのお知らせで『演習(ゼミ)選考一覧』を確認してください。
	選考実施期間	4月10日(月)～14日(金) ※ 演習授業時または指定された昼休み(教室)。

- 注意事項 -

- (1) 第1回・2回選考の希望登録は、TKUポータルの[成績・履修]画面右のサブメニューに3月13日(成績発表の日)以降(希望登録期間)に表示される「ゼミ希望登録・結果参照」から行ってください。(なお、ゼミ継続生も毎年度、演習選考手続きをしないと履修登録できません。)

- (2) 『「演習（ゼミ）」選考予定一覧』で履修を希望する演習の選考日時・方法を確認し、予定を空けておいてください。
- (3) 『「演習（ゼミ）」選考一覧』で選考の有無・場所等を確認し、選考が実施される場合は必ず出席してください。
- (4) 定員に空きのあるゼミのみ申込を受け付けます。
- (5) 第3回選考は、TKUポータルでの希望登録はできません。TKUポータルのお知らせから『第3回「演習」履修許可カード』を各自ダウンロードし、選考時に持参してください。履修を許可された場合、カードに教員の許可印をもらい、期限内に学務課へ提出してください。提出が選考実施期間を過ぎた場合は履修できません。許可されなかった場合は、選考実施期間内に別のゼミの選考を受けることができます。
- (6) 同一年度に「演習」「総合教育演習」とも履修を希望する場合、同時に希望登録することができます。
 ※ただし、選考日時が重なった場合は、「総合教育演習」担当の先生に選考時間の調整をお願いしてください。
※履修許可となった「演習」は2023年度に履修指定されます（取消・変更は原則不可）。

(2) 演習の履修制限回数

履修制限回数
同一年度に「演習」を合計で2科目まで、在学期間中「演習」を合計で3科目まで履修できます。
「演習」とは別に、同一年度に1科目のみ、在学期間中合計3科目まで履修できます。

※「演習」（基幹科目）と「卒業研究」は原則コミュニケーション学部専任教員が担当しますが、「総合教育演習」（総合教育科目）はコミュニケーション学部以外の専任教員が担当します。「演習」を選択する際は、4年次の必修科目である「卒業研究」も念頭において検討してください。「卒業研究」の履修は、2年次および3年次「演習」での学習が当然のこととして前提となります。

以上

No	科目名	対象学年	担当教員	演習表題
1	演習	2年	大岩 直人	ひとと違うことを考えられるようになる、ためのゼミ
2	演習	3・4年	大岩 直人	ひとと違う考えをカタチにできるようになる、ためのゼミ
3	演習	2・3・4年	大榎 淳	表現研究
4	演習	2年	大橋 香奈	〈移動〉をめぐるデザインに関するビジュアル・エスノグラフィー研究入門
5	演習	3・4年	大橋 香奈	〈移動〉をめぐるデザインに関するビジュアル・エスノグラフィー研究
6	演習	2・3・4年	大尾 侑子	メディア文化の社会学—ファンカルチャーの現在地
7	演習	2年	北村 智	メディア利用行動研究入門
8	演習	3・4年	北村 智	メディア利用行動の実証的研究
9	演習	2年	北山 聡	基礎能力開発セミナー
10	演習	3・4年	北山 聡	プレゼンテーションを極める
11	演習	2年	小林 誠	異文化のフィールドワーク
12	演習	3・4年	小林 誠	人間至る所フィールドあり
13	演習	2年	駒橋 恵子	経済ニュースと広報課題の研究
14	演習	3・4年	駒橋 恵子	経済ニュースと広報実務の研究
15	演習	2年	小山 健太	異文化マネジメント研究〈基礎学習〉
16	演習	3・4年	小山 健太	異文化マネジメントの研究〈社会調査実践〉
17	演習	2年	佐々木 裕一	デジタルと人間および社会の関係を知る
18	演習	3・4年	佐々木 裕一	デジタルと人間および社会の関係を事例から論じる
19	演習	2年	柴内 康文	メディア、コミュニケーションと人間関係:基礎的理解
20	演習	3・4年	柴内 康文	メディア、コミュニケーションと人間関係の探求
21	演習	2年	田村 和人	映像制作の基本スキル
22	演習	3・4年	田村 和人	映像表現とプロデュース作業
23	演習	2年	中村 忠司	観光学入門
24	演習	3・4年	中村 忠司	ツーリズムと社会—観光学の視点で社会の様々な現象を論じる—
25	演習	2・3・4年	中村 嗣郎	英語を学ぶ、英語で学ぶ
26	演習	2・3・4年	長谷川 倫子	英語圏のメディアや社会を理解する
27	演習	2・3・4年	林 剛大	自己表現と自己実現のための英語:対話と調整を通じて
28	演習	2・3・4年	町村 敬志	都市・空間の現在から社会とメディアの可能性を考える
29	演習	2・3・4年	松永 智子	戦争とメディア:文献購読から論文作成まで
30	演習	2・3・4年	光岡 寿郎	現代文化の社会学
31	演習	2年	南 隆太	An Introduction to Intercultural Communication I
32	演習	3・4年	南 隆太	An Introduction to Intercultural Communication II
33	演習	2・3・4年	本橋 哲也	韓国ドラマのカルチュラル・スタディーズ
34	演習	2年	山下 玲子	メディアコンテンツの描写、影響の社会心理学的研究
35	演習	3・4年	山下 玲子	メディアの影響の社会心理学的研究
36	演習	2・3・4年	山田 晴通	ポピュラー音楽について考える
37	演習	2・3・4年	ピーター・ロス	Japan in English(日本を英語で考える)

演習（2年）

大岩 直人

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

ひとと違うことを考えられるようになる、ためのゼミ

【授業の形態・方法・内容】

クリエイティブな発想法を学び、それを試してみるゼミです。一年を通じて常識や順目の考え方に対して常に「疑ってかかる」姿勢を大切にします。参加にあたっては事前に特別なスキルを取得している必要ありませんが、覚悟が必要です。ひとと違った意外性のあるアイデアを考え出すことは、とてもハードで地道な作業です。アイデアというものは決して簡単に「思い付く」ものではありません。アイデアの元となる素材は徹底的に調べ上げるものです。過去の広告等のクリエイティブ作品をたくさんリサーチすることになると思います。たくさん本を読むことになると思います。そうしたことを面倒臭いと思う人は応募しないでください。広告作品をモチーフにすることが多いですが、あらゆる分野の芸術作品が研究対象になります。一年かけてやっていける自信が付いたら、そのまま来年もアップグレードしていきましょう。「表現できる人」を育てるためのゼミです。この授業は演習形式です。なお、本ゼミは対面での授業を基本としますが、それが困難な状況の場合は、授業の一部またはすべてを遠隔で行うこととします。具体的には、manabaを利用した課題レポートの提出およびそのフィードバックと、ZOOM等を利用したオンライン授業の併用（A型+C型）を予定しています。

【到達目標】

さまざまな企業でブランディングや広報を担当できる人材を育てます。就活はもちろんのこと、これからの人生のいろいろな局面で大切になる自己ブランディングのための基本姿勢が学べます。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部/メディア社会学科 DP2)コミュニケーションを支えるメディアの特性と、その組織・企業における展開を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部 DP3)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

【事前・事後学習】

過去の広告作品は「ひとと違うことを考えられるようになる」ための格好の教材です。国内外の広告賞等で受賞した作品を積極的にチェックする癖を身に付けてください。その上で、日頃から、小説、映画、演劇、音楽、美術等、さまざまな芸術分野での知見を深めていく努力を怠らないようにしてください。数回のワークショップや夏休みの課題、期末制作等の準備・フォローアップのために、事前事後で計4時間、それぞれ2時間程度を目安としてください。遠隔授業になった場合も、課題レポート、各種制作物の作成に同様の時間が必要となります。

【授業計画】

第1回 セルフブランディング（1）

- 第2回 セルフブランディング (2)
- 第3回 セルフプロモーションワークショップ (1)
- 第4回 セルフプロモーションワークショップ (2)
- 第5回 クリエイティブテクニック：言い換える
- 第6回 クリエイティブテクニック：組み換える
- 第7回 クリエイティブテクニック：ズラす
- 第8回 あの広告コピーを使って別の広告をつくってみる
- 第9回 あの広告写真を使って別の広告をつくってみる
- 第10回 つまらない話はどこがつまらないのか
- 第11回 クールなストーリー
- 第12回 つまらない写真はどこがつまらないのか
- 第13回 屋外フォトワークショップ
- 第14回 ファウンドフォトという考え方
- 第15回 夏休みの課題説明
- 第16回 夏休みの課題発表と質疑応答 (1)
- 第17回 夏休みの課題発表と質疑応答 (2)
- 第18回 コンテンツとコンテキスト
- 第19回 メディアとはなにか
- 第20回 ホットなメディアとクールなメディア
- 第21回 オリジナリティってなんだろう
- 第22回 メディアアートについて
- 第23回 メディアは表現のための器ではない
- 第24回 メディアの現状を疑おう
- 第25回 問題を提起するチカラ
- 第26回 いつも正反対のことを考える
- 第27回 あなたもアーティストになってみる
- 第28回 改めて、コミュニケーションってなんだろう
- 第29回 期末制作発表 (1)
- 第30回 期末制作発表 (2)

【評価方法】

授業参加点を第一とします。グループワークも多いので欠席は他の人の迷惑にもなります。授業

参加点（50点）以外の評価は、夏休みの課題を含む数回のワークショップ（30点）、期末制作（20点）を目安とします。授業中に毎回のワークショップの評価に関して適宜フィードバックを行います。遠隔授業となった場合は、課題レポートの提出回数にオンライン授業の参加状況を加味したものが授業参加点となります。

【教科書】

特にありません。

【参考文献】

授業内で適宜紹介します。

【特記事項】

特にありません。

演習 (3, 4年)

大岩 直人

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

ひとと違う考えをカタチにできるようになる、ためのゼミ

【授業の形態・方法・内容】

クリエイティブな発想を学び、それを試してみるゼミです。演習(2年)の「ひとと違うことが考えられるようになる、ためのゼミ」の続編です。3・4年のみなさんには、ひとと違うことが考えられるようになる、だけでなく、それを表現としてカタチにすることに一年を通じてチャレンジしてもらいます。創るもののジャンルは問いません。映像、音楽、造形だけではなく、自分の身体そのものを使う、敢えて言葉だけで勝負する、最先端のデジタルテクノロジーを駆使する、等々。既成のメディアのための表現のみならず、メディアそのものを発明して、ひととひととのコミュニケーションに新しい変革をもたらしてくれるものを期待しています。授業中にみなさんの創作のヒントになるような事例をなるべくたくさん提示したいと思います。この授業は演習形式で、個人の思索・制作とグループごとのワークショップで構成されています。一年かけて、ひとと違う考えを、メディアと表現を一体にして制作することの楽しさを(そして苦しみを)いっしょに体験していきましょう。なお、本ゼミは対面での授業を基本としますが、それが困難な状況の場合は、授業の一部またはすべてを遠隔で行うこととします。具体的には、manabaを利用した課題レポートの提出およびそのフィードバックと、ZOOM等を利用したオンライン授業の併用(A型+C型)を予定しています。

【到達目標】

さまざまな企業でブランディングや広報を担当できる人材を育てます。就活はもちろんのこと、これからの人生のいろいろな局面で大切になる自己ブランディングのための基本姿勢が学べます。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部(2021年度以前入学生) DP2)コミュニケーションの出発点としての身体性を踏まえた他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部(2021年度以前入学生) DP3)コミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部(2021年度以前入学生) DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部(2021年度以前入学生) DP5)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

過去の広告作品は「ひとと違うことを考えられるようになる」ための格好の教材です。国内外の広告賞等で受賞した作品を積極的にチェックする癖を身に付けてください。その上で、日頃から、小説、映画、演劇、音楽、美術等、さまざまな芸術分野での知見を深めていく努力を怠らないようにしてください。数回のワークショップや夏休みの課題、期末制作等の準備・フォローアップのために、事前事後で計4時間、それぞれ2時間程度を目安としてください。遠隔授業になった場合も、課題レポート、各種制作物の作成に同様の時間が必要となります。

【授業計画】

- 第1回 自分史をつくる
- 第2回 ひとと違う自分史をつくり出す
- 第3回 未来予測2030
- 第4回 未来から見つめ直す現在の私
- 第5回 セルフプロモーションワークショップ (1)
- 第6回 セルフプロモーションワークショップ (2)
- 第7回 コンテンツとコンテキスト
- 第8回 ストーリーテリング
- 第9回 クオリアについて
- 第10回 想像の余地を残すこと
- 第11回 リドルストーリー
- 第12回 フォトワークショップ
- 第13回 つまらない写真を撮る
- 第14回 つまらない写真をおもしろくする
- 第15回 夏休みの課題説明
- 第16回 夏休みの課題発表と質疑応答 (1)
- 第17回 夏休みの課題発表と質疑応答 (2)
- 第18回 メディアとコンテンツ
- 第19回 メディアとテクノロジー
- 第20回 ホットなメディアとクールなメディア
- 第21回 メディアクリエイティブワークショップ (1)
- 第22回 メディアクリエイティブワークショップ (2)
- 第23回 メディアクリエイティブワークショップ (3)
- 第24回 期末制作 (ブレ卒業制作) の課題説明
- 第25回 期末制作 (1)
- 第26回 期末制作 (2)
- 第27回 期末制作 (3)
- 第28回 期末制作 (4)
- 第29回 期末制作発表と評価 (1)
- 第30回 期末制作発表と評価 (2)

【評価方法】

授業参加点が第一です。グループワークも多いので欠席は他の人の迷惑にもなります。授業参加点（50点）以外の評価は、夏休みの課題含む数回のワークショップ（25点）、プレ卒業制作（期末制作）（25点）を目安とします。授業中に毎回のワークショップの評価に関して適宜フィードバックを行います。遠隔授業となった場合は、課題レポートの提出回数にオンライン授業の参加状況を加味したものが授業参加点となります。

【教科書】

特にありません。

【参考文献】

授業内で適宜紹介します。

【特記事項】

特にありません。

演習

大榎 淳

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

表現研究

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習科目である。テーマを設定し、制作・研究を行い、発表し、その作品・論文を相互に批評し、討論する。主に、卒業制作を目指す学生が参加しているが、メディアはとくに限定しない（だから、テキスト/論文を執筆・発表するという場合もある）。

このため、必要に応じて実習授業（ワークショップ）へ参加するなど、自律的、継続的な行動が求められる。この演習中に作品・論文を完成させる道筋があるのではなく、参加者ごとの制作活動のために、相互に検討して考え、また、発表のために、共同して行動する場があるということだ。

シラバス執筆の時点では、5限の授業という前提なので、6限まで延長する場合があると考えている。また、見聞を広めるために、学外での見学など、授業時間外の活動もある。遠隔地の展覧会やアートイベントには、合宿などの方法で出向くことになる。さらに、成果発表のためのイベント・展覧会を開催する。作品は、テーマに対応して具体的に公開され、状況を社会の中に作り出して機能させることで成立する。

なお、演習は対話の場なので、それぞれの成果や意見に対して、常に、担当教員の考えが表明される。そのフィードバックについて、耳を傾け、考えて、さらに意見を表明してほしい。

また、遠隔方式での実施となる可能性がある。作品発表でも、一般的なイベントや展覧会のように、人々を一定の空間に集めることが困難という状況も考えられる。こうした場合でも、可能な方法を提案・検討し、実施（実験）することが、「表現研究」をテーマとしたこの演習のやり方である。一般に遠隔授業には、A、B、C型といった呼び名があるが、既存の概念を越えて、さまざまな可能性を検討して試みる。

【到達目標】

この演習の目標は、ヨーゼフ・ボイスが語った「誰もが芸術家」という意味での芸術家となることである。つまり、表現活動を通して、社会を変革する「社会彫刻」の主体を目指す。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部/メディア社会学科 DP2)コミュニケーションを支えるメディアの特性と、その組織・企業における展開を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部/国際コミュニケーション学科 DP2)国境を越えた移動によりグローバル化の進む現代社会における他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 DP3)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュ

二ヶーション技能

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP2)コミュニケーションの出発点としての身体性を踏まえた他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP3)コミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP5)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

各回の授業に対応し、取材や調査、発表のためのレポート作成を行うことになる。通常でも、事前・事後の学習は、1回の授業あたり約4時間ほどが必要だ。同時に、各自の技術習得と制作活動は、自律的に継続しなければならない。加えて、見学、合宿、ゼミ展などのプロジェクトの遂行には、さらに時間を要するので、覚悟して参加してほしい。

【授業計画】

- 第1回** [オリエンテーション01]シラバスの再確認を行い、この演習のオリエンテーションとする。ここで、ゼミ長を選出する場合もある。
- 第2回** [行動計画01]全体的な行動計画を立てる。なお、例年、1. ゼミ合宿（展覧会見学など）、2. 発表会（ゼミ展）、3. 記録集作成を行うので、これらの検討を行う。また、2期に開催される学部のゼミ発表会については、夏期休暇以降に検討する。発表会（ゼミ展など）に関して、学外のスペースをレンタルするなどの場合は、予約時期などを確認する。[合評01]継続参加者から、発表（合評）を開始する。
- 第3回** [行動計画02]全体的な行動計画を継続する。合宿実施の場合は、担当者を決定する。以降、担当者を中心に計画を進める。[合評02]合評を継続する。
- 第4回** [行動計画03]行動計画を継続する。[合評03]合評を継続する。
- 第5回** [行動計画04]行動計画を継続する。[合評04]合評を継続する。
- 第6回** [行動計画05]行動計画を継続する。[合評05]合評を継続する。
- 第7回** [行動計画06]行動計画を継続する。[合評06]合評を継続する。
- 第8回** [行動計画07]行動計画を継続する。1期末の発表会（展覧会、イベント、上映会など）について、企画を具体化し、広報の準備を行う。さらに、作品記録集作成のために、仕様を確定し、作品に関するデータを集める手順を決定する。[合評07]合評を継続する。
- 第9回** [行動計画08]行動計画を継続する。発表会場によっては、交渉が必要となる。各作品のプランと会場全体の関係を意識しながら検討する。また、発表に関する広報用ウェブ（SNS等を含む）、ポスター、案内はがき、もしくはフライヤー等を作成する。この時点までに、タイトルなどの詳細を決め、作業担当者を確定する。[合評08]合評を継続する。

- 第10回** [行動計画09]行動計画を継続する。1期末の発表会について、広報用の表現物を全体で校正・確認する。修正があれば、翌週に再確認する。印刷を外部に依頼する場合は、その後に入稿する。ウェブ等についても、参加者の確認後に公開する。[合評09]合評を継続する。
- 第11回** [行動計画10]行動計画を継続する。発表する作品について、その記録スタイルを検討する（ドキュメント作成）。[合評10]合評を継続する。
- 第12回** [行動計画11]行動計画を継続する。[合評11]合評を継続する。
- 第13回** [行動計画12]行動計画を継続する。[合評12]合評を継続する。
- 第14回** [行動計画13]15週目を発表会と想定して、14週目は、その準備、作業分担、打ち合わせなどに集中する。
- 第15回** [◎合評13]発表会（展覧会、イベント、上映会など）の実施。同時に、合評会を行う。ただし、授業日以外にイベントを開催する可能性もあり、その場合は、この回の演習は、準備、打ち合わせなどが中心となる。また、演習の時間に発表会を行うとしても、その前後には、必ず、準備と撤収の作業がある。1期のポートフォリオを提出。
- 第16回** [行動計画14]夏期休暇前の1期の発表会（ゼミ展）について、ドキュメントの作成報告。または、作業の進捗状況についての報告。夏期休暇中の合宿による展覧会見学などがあれば、その報告・批評を行う。
- 第17回** [行動計画15]2期の発表会（ゼミ展）について、1期同様の検討に入る。また、学部主催のゼミ発表会については、内容を検討し、発表者を決定する。[合評14]合評を継続する。
- 第18回** [行動計画16]発表会に関する広報用ウェブ（SNS等を含む）、ポスター、案内はがき、もしくはフライヤー等について計画し、作業担当者を決定する。[合評15]合評を継続する。
- 第19回** [行動計画17]発表会について、広報用の表現物に関して、全体で校正して確認する。修正の必要があれば、次回に再確認する。外部の印刷では、その後に出稿する。ウェブ等は、全体の確認後に公開する。[合評16]合評を継続する。
- 第20回** [行動計画18]発表会の詳細を検討する。[合評17]合評を継続する。
- 第21回** [行動計画19]発表会の詳細を検討する。[合評18]合評を継続する。
- 第22回** [行動計画20]主に2年生について、継続履修の希望を確認する。[合評19]合評を継続する。
- 第23回** [行動計画21]3年生は、翌年度の卒業制作・卒業論文の計画を示して、授業登録の手続きを開始する。[合評20]合評を継続する。卒制・卒論に向けた発表、計画発表となる場合もある。
- 第24回** [行動計画22]計画検討を継続する。[合評21]合評を継続する。卒制・卒論に向けた発表、計画発表となる場合もある。
- 第25回** [行動計画23]計画検討を継続する。[合評22]合評を継続する。卒制・卒論に向けた発表、計画発表となる場合もある。
- 第26回** [行動計画24]27週目が発表会の場合、1期同様、26週目には、発表会（ゼミ展）の準

備, 作業分担, 打ち合わせなどを行う。

第27回 [◎合評24]年末に, 発表会(展覧会, イベント, 上映会など)を開催して, 同時に合評会を行う。ゼミ展の場合, 搬入・撤去を含め1週間ほどの開催となる場合が一般的だ。授業日以外に, 学外での合評会となる可能性もある。

第28回 [行動計画25]演習活動全体についての年間ドキュメントの作業報告, 連絡。また, 参加者ごとのポートフォリオに関する情報交換などを行う。[合評25]合評を継続する。卒制・卒論に向けた発表となる場合もある。

第29回 [行動計画26]年間ドキュメント・ポートフォリオについての作業報告, 連絡などを行う。[合評26]合評を継続する。卒制・卒論に向けた発表となる場合もある。

第30回 [行動計画27]年間ドキュメント・ポートフォリオを完成させる。[合評27]合評を継続する。卒制・卒論に向けた発表となる場合もある。

【評価方法】

参加状況と作品(論文を含む), それに, 各自の成果をまとめたポートフォリオを総合して評価する(100%)。ただし, 参加状況は, 出席で評価が上がるという意味ではなく, 報告発表, 積極的な意見の表明, イベントでの活動など, 様々な活動の内容を評価するということである。

【教科書】

なし。

【参考文献】

参考資料は, 文献に限らず随時提示する。

【特記事項】

授業計画が変更される場合は事前に告知する。また, 必要に応じて, 計画について参加者で検討の上, 変更する場合がある。

学部の実習科目(ワークショップ)が扱う分野で卒業制作を目指す場合は, 該当する実習科目を1科目以上履修することを演習参加の条件とする(演習と実習科目の曜日時限が重複する場合や, その他疑問点があれば, あらかじめ下記メールアドレスを利用して相談すること)。

参加者相互の情報共有のために, 電子メールをはじめ, 大学が提供するオンラインの諸サービスを利用するので, これらに習熟して利用すること。

授業時間外の活動にも積極的に参加すること。このシラバス執筆の時点では, 授業を5限に行うつもりなので, さらに6限まで時間を延長して実施の可能性がある。バイトやサークル活動を否定しないが, そうしたことを不参加の言い訳にする者は, この演習に参加できない。

制作や研究に関する費用は, 基本的に各自の負担である。見学時の交通費や各種チケット代なども同様だ。

私が担当する「卒業研究」「卒業制作・卒業論文」への登録は, この「演習」への参加を条件としない。ただし, 「卒業研究」「卒業制作・卒業論文」の履修登録の際には, 十分な時間をかけて審査を行う。この演習の参加者であっても履修を認めない場合がある。

不明な点があれば, 選考前にも質問や相談を受け付ける。直接, もしくは電子メール(oenoki@tku.ac.jp)で連絡してほしい。

演習（2年）

大橋 香奈

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

〈移動〉をめぐるデザインに関するビジュアル・エスノグラフィー研究入門

【授業の形態・方法・内容】

演習形式の科目です。

私たちの生活を成り立たせている、多様な〈移動〉をめぐるモノやサービスのデザインについて、写真や映像などのビジュアルな方法を使って調査研究します。まずは文献講読、グループワークやディスカッションを通して基礎的な内容を学んだうえで、メンバーはそれぞれ、自分の調査研究（＝マイプロジェクト）を企画して、フィールドワークに取り組み、その成果をまとめてプレゼンテーションします。

学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを用いたC型で授業を実施します。

・研究対象：多様な〈移動〉をめぐるモノやサービスのデザイン

この演習で着目する〈移動〉には、通勤、通学、引っ越し、旅行などの際の身体の移動はもちろんですが、商品や贈り物など物の移動、想像による移動、バーチャル空間での移動、メッセージやイメージの移動なども含まれます。私たちの生活は、こうした多様な〈移動〉をめぐるモノやサービスによって成り立っています。

日頃、多様な〈移動〉をめぐるモノやサービスを使っている時、疑問を持ったり、不満や不具合を感じたりしても、そのままやり過ごしてしまうという人が多いかもしれません。しかし、そうした生活の中でのちょっとした「気づき」は、社会的な「問題」をとらえ直し、新たな提案を生み出すチャンスになります。この演習では、ちょっとした「気づき」から、自分の調査研究（＝マイプロジェクト）を生み出すための研究方法を学びます。

・ビジュアル・エスノグラフィーという方法

この演習では、文献を通して学ぶだけではなく、メンバー自身が「マイプロジェクト」を企画し、調査研究します。その際は、「ビジュアル・エスノグラフィー」という方法を使います。これは、写真や映像、スケッチなどのビジュアルな方法を使って、フィールドワーク（観察やインタビュー）を行い、その成果をプレゼンテーションすることを目指すアプローチです。年度の最後には、全員の「マイプロジェクト」の成果をまとめた冊子を制作します。

授業でのプレゼンテーションについては、その都度、フィードバックを行います。

毎回、授業後にふりかえりの文章を提出してもらいます。次週の最初に、その内容に対するフィードバックを行います。

メンバーとのやりとりをふまえて、扱う文献や授業計画（スケジュール）を調整する場合があります。「マイプロジェクト」については、授業中だけでなく、個人面談で一人ひとりと相談する機会も設けます。

【到達目標】

「移動の社会学」の考え方や、「ビジュアル・エスノグラフィー」の研究方法の基礎を、文献講読、グループワーク、ディスカッション、フィールドワークを通して学習し、自分で企画した

「マイプロジェクト」で実践できるようになることを目標とする。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部/メディア社会学科 DP2)コミュニケーションを支えるメディアの特性と、その組織・企業における展開を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部/国際コミュニケーション学科 DP2)国境を越えた移動によりグローバル化の進む現代社会における他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 DP3)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

【事前・事後学習】

指定された文献の内容をグループワークでまとめて、発表する準備が必要である。事前の学習・作業と事後の復習を合わせて、少なくとも4時間は確保すること。また、1期の後半から2期にかけては、「マイプロジェクト」の企画、調査・撮影、執筆にあてる時間として、事前・事後合わせて、少なくとも6時間は必要になる。

【授業計画】

第1回 イン트로ダクション：1期の目標と進め方

第2回 文献講読とグループワーク（1）

第3回 文献講読とグループワーク（2）

第4回 文献講読とグループワーク（3）

第5回 ワークショップ（1） 観察

第6回 ワークショップ（2） インタビュー

第7回 アイディア・サークル

第8回 事前調査の進め方

第9回 マイプロジェクトのアイディア発表 1班

第10回 マイプロジェクトのアイディア発表 2班

第11回 調査研究の計画書の書き方（1）

第12回 調査研究の計画書の書き方（2）

第13回 計画書の発表 1班

第14回 計画書の発表 2班

第15回 1期のまとめと今後の進め方

第16回 イン트로ダクション：2期の目標と進め方

第17回 文献講読とグループワーク（4）

第18回 文献講読とグループワーク（5）

第19回 文献講読とグループワーク（6）

- 第20回 マイプロジェクト進捗発表 1班 (1)
- 第21回 マイプロジェクト進捗発表 2班 (1)
- 第22回 ワークショップ (3) 分析
- 第23回 文献講読とグループワーク (7)
- 第24回 マイプロジェクト進捗発表 1班 (2)
- 第25回 マイプロジェクト進捗発表 2班 (2)
- 第26回 文献講読とグループワーク (8)
- 第27回 ビジュアル・エッセイ初稿の提出とフィードバック
- 第28回 マイプロジェクト成果発表1班
- 第29回 マイプロジェクト成果発表2班
- 第30回 講評とふりかえり

【評価方法】

毎回の出席を前提とし、授業内での発表、ディスカッションへの参加、「マイプロジェクト」の成果発表などの取り組みを総合的に評価する（100%）。

【教科書】

教科書は指定しない。適宜、manabaで資料を配布するので必ず印刷して読み、授業に持参すること。

【参考文献】

- ・アーリ, J. (2015) 『モビリティーズ—移動の社会学』作品社
- ・バンクス, M. (2016) 『質的研究におけるビジュアルデータの使用』新曜社
- ・水野大二郎・津田和俊 (2022) 『サーキュラーデザイン』学芸出版社

【特記事項】

机の前で文献をじっくり読んだり執筆したりすることと、現場で他者と関わり調査・撮影を行うこと、その両方に取り組む意欲があり、そのための時間をつくれる人を求める。「移動の生活学」を履修することが望ましい。

演習 (3, 4年)

大橋 香奈

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

〈移動〉をめぐるデザインに関するビジュアル・エスノグラフィー研究

【授業の形態・方法・内容】

演習形式の科目です。

私たちの生活を成り立たせている、多様な〈移動〉をめぐるモノやサービスのデザインについて、写真や映像などのビジュアルな方法を使って調査研究します。文献講読、グループワークやディスカッションを通して専門的な内容を学んだうえで、メンバーはそれぞれ、自分の調査研究（＝マイプロジェクト）を企画して、フィールドワークに取り組み、その成果をまとめてプレゼンテーションします。

学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを用いたC型で授業を実施します。

・研究対象：多様な〈移動〉をめぐるモノやサービスのデザイン

この演習で着目する〈移動〉には、通勤、通学、引っ越し、旅行などの際の身体の移動はもちろんですが、商品や贈り物など物の移動、想像による移動、バーチャル空間での移動、メッセージやイメージの移動なども含まれます。私たちの生活は、こうした多様な〈移動〉をめぐるモノやサービスによって成り立っています。

日頃、多様な〈移動〉をめぐるモノやサービスを使っている時、疑問を持ったり、不満や不具合を感じたりしても、そのままやり過ごしてしまう人が多いかもしれません。しかし、そうした生活の中でのちょっとした「気づき」は、社会的な「問題」をとらえ直し、新たな提案を生み出すチャンスになります。この演習では、ちょっとした「気づき」から、自分の調査研究（＝マイプロジェクト）を生み出すための専門性を身につけます。

・ビジュアル・エスノグラフィーという方法

この演習では、文献を通して学ぶだけではなく、メンバー自身が「マイプロジェクト」を企画し、調査研究します。その際は、「ビジュアル・エスノグラフィー」という方法を使います。これは、写真や映像、スケッチなどのビジュアルな方法を使って、フィールドワーク（観察やインタビュー）を行い、その成果をプレゼンテーションすることを目指すアプローチです。年度の最後には、全員の「マイプロジェクト」の成果をまとめた冊子を制作します。成果を学内外に発信することで、研究を通してコミュニケーションする力を磨くことを目指します。

授業でのプレゼンテーションについては、その都度、フィードバックを行います。

毎回、授業後にふりかえりの文章を提出してもらいます。次週の最初に、その内容に対するフィードバックを行います。

メンバーとのやりとりをふまえて、扱う文献や授業計画（スケジュール）を調整する場合があります。「マイプロジェクト」については、授業中だけでなく、個人面談で一人ひとりと相談する機会も設けます。

【到達目標】

「移動の社会学」の考え方や、「ビジュアル・エスノグラフィー」の研究方法の専門的な知識

を、文献講読、グループワーク、ディスカッション、フィールドワークを通して学習し、自分で企画した「マイプロジェクト」で実践できるようになることを目標とする。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP2)コミュニケーションの出発点としての身体性を踏まえた他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP5)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

指定された文献の内容をグループワークでまとめて、発表する準備が必要である。事前の学習・作業と事後の復習を合わせて、少なくとも4時間は確保すること。また、1期の後半から2期にかけては、「マイプロジェクト」の企画、調査・撮影、執筆にあてる時間として、事前・事後合わせて、少なくとも6時間は必要になる。

【授業計画】

第1回 イン트로ダクション：1期の目標と進め方

第2回 文献講読とグループワーク (1)

第3回 文献講読とグループワーク (2)

第4回 文献講読とグループワーク (3)

第5回 ワークショップ (1) 観察

第6回 ワークショップ (2) インタビュー

第7回 アイディア・サークル

第8回 事前調査の進め方

第9回 マイプロジェクトのアイディア発表 1班

第10回 マイプロジェクトのアイディア発表 2班

第11回 調査研究の計画書の書き方 (1)

第12回 調査研究の計画書の書き方 (2)

第13回 計画書の発表 1班

第14回 計画書の発表 2班

第15回 1期のまとめと今後の進め方

第16回 イン트로ダクション：2期の目標と進め方

第17回 文献講読とグループワーク (4)

第18回 文献講読とグループワーク (5)

第19回 文献講読とグループワーク (6)

第20回 マイプロジェクト進捗発表 1班 (1)

第21回 マイプロジェクト進捗発表 2班 (1)

第22回 ワークショップ (3) 分析

第23回 文献講読とグループワーク (7)

第24回 マイプロジェクト進捗発表 1班 (2)

第25回 マイプロジェクト進捗発表 2班 (2)

第26回 文献講読とグループワーク (8)

第27回 ビジュアル・エッセイ初稿の提出とフィードバック

第28回 マイプロジェクト成果発表1班

第29回 マイプロジェクト成果発表2班

第30回 講評とふりかえり

【評価方法】

毎回の出席を前提とし、授業内での発表、ディスカッションへの参加、「マイプロジェクト」の成果発表などの取り組みを総合的に評価する（100%）。

【教科書】

教科書は指定しない。適宜、manabaで資料を配布するので必ず印刷して読み、授業に持参すること。

【参考文献】

- ・アーリ, J. (2015) 『モビリティーズ—移動の社会学』 作品社
- ・バンクス, M. (2016) 『質的研究におけるビジュアルデータの使用』 新曜社
- ・水野大二郎・津田和俊 (2022) 『サーキュラーデザイン』 学芸出版社

【特記事項】

机の前で文献をじっくり読んだり執筆したりすることと、現場で他者と関わり調査・撮影を行うこと、その両方に取り組む意欲があり、そのための時間をつくれる人を求める。「移動の生活学」を履修することが望ましい。

演習

大尾 侑子

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

メディア文化の社会学——ファンカルチャーの現在地

【授業の形態・方法・内容】

この演習は、各位の興味関心から出発し、さまざまなメディア／文化のなかに社会問題との結節点を探りながら、それを社会的な「問い」の形式に昇華する知的鍛錬を目的とします。その対象はマンガ、アニメ、ドラマ、映画、アイドル、音楽、小説、スポーツなど自由なものでかまいません。ただし、これらの対象を「好きなもの語り」ではなく、あくまでも学問的な視点で探究したいという方をお待ちしています。2023年度は前年度に引き続き、議論の補助線として「ファン fan」というキーワードに注目します。

授業形態は演習（グループワーク、文献購読、個人発表）を主軸としますが、映像作品鑑賞や、都市散歩などのフィールドワークの回も設けます。1期はグループワークを行い、プレゼン大会を行います。グループワークを通じて、学術書や論文の探し方、文献リストの作り方、スライド作成など基本的な作業の仕方を学びます。2期は社会的な文献を輪読し、①要約する力、②批判的に読む力を身につけます。

また本演習では、自分の考えを相手に正しく伝える説得的な文章を書くための論理的な文章構成法や修辞（日本語表現）も学びます。その一環として、2期では卒業論文執筆に向けたミニ論文（ゼミレポート）の執筆をおこない、ゼミ生同士で添削しあいます。

【到達目標】

この科目はメディア社会学・文化社会学分野の基礎的な学術動向を踏まえ、基礎教養や学術的な知識の獲得、および自らの問題関心を社会的な「問い」の形に昇華することが目的です。また学術論文の批判的な読解にかかわるテクニックを学んだうえで、卒業論文執筆に向けたアカデミックライティングの基礎を理解することを目指します。こうしたプロセスを経て、自身の考えやアイデアを創造し、伝達していくコミュニケーション技術を磨き上げことを目標とします。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部 DP3)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP3)コミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP5)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

グループワークは演習時間内の作業のほか、進捗に合わせて演習時間外の準備（先行研究の整理、班での討論、スライド作り）が必要です。

【事前学習】週4時間、【事後学習】2～6時間程度

文献購読とゼミレポート発表では、各自が事前に課題文献（英語の論文を含む）を読み、発表資料の作成に時間を要します。

【事前学習】 学術論文1本→2時間、英語論文→4～5時間程度

【事後学習】 レジюме作成→2～5時間程度

（※2万字の学術論文1本を精読するには数時間～1日以上、レジюмеにまとめるには最低、数日間かかります）。

【授業計画】

第1回 ガイダンス——自己紹介、ゼミ運営のためのルール共有

第2回 自己紹介と前期のメインテーマ決め

第3回 映像視聴 1本目（前半）

第4回 映像視聴 1本目（後半）

第5回 映像に関するグループごとの考察発表

第6回 映像視聴 2本目（前半）

第7回 映像視聴 2本目（後半）

第8回 映像に関するグループごとの考察発表

第9回 グループワークの班決め+テーマ決め

第10回 グループワーク（2）プレゼン資料の作り方、文献の探し方

第11回 グループワーク（3）プレゼン資料の作り方、文献収集

第12回 グループワーク（4）プレゼン資料の作り

第13回 プレゼン大会1回目

第14回 プレゼン大会2回目

第15回 前期のまとめと後期の内容決定

第16回 後期のガイダンス——文献発表グループ決め+学術論文の読み方講義

第17回 フィールドワーク（都市散歩）

第18回 文献輪読 1回目

第19回 文献輪読 2回目

第20回 文献輪読 3回目

第21回 文献輪読 4回目

第22回 文献輪読 5回目

第23回 ゼミレポートの書き方

第24回 ゼミレポートの進捗発表 1回目

第25回 ゼミレポートの進捗発表 2回目

第26回 ゼミレポートの進捗発表 3回目

第27回 ゼミレポートの進捗発表 4回目

第28回 ゼミレポートの進捗発表 5回目

第29回 フィールドワーク（都市散歩）+ゼミレポート提出

第30回 ゼミのまとめとゼミレポート冊子作成と配布

【評価方法】

プレゼンテーション/提出物（40%）、文献発表への取り組み（30%）、ディスカッションへの積極的な参加（30%）などを総合的に評価します。学生の発表および提出物には、教員が毎回フィードバックをおこない、ブラッシュアップする方法を提示します

【教科書】

輪読する文献についてはゼミ内で提示するため、事前に購入する必要はない。

【参考文献】

長谷川一・浜日出夫ほか『社会学 新版』（2019年、有斐閣） 樺島忠夫『文章構成法』（1980年、講談社）

【特記事項】

参加者の意向を汲んでフレキシブルなゼミ運営をおこなう予定なので、他のゼミ生と積極的にコミュニケーションを取り、主体的にゼミの運営に携わる姿勢を求めます。また演習では各自の趣味だけでなく、しばしばセンシティブでもあるテーマ（政治、ジェンダー、セクシュアリティなど）についても議論のしやすい空間作りを重視します。そのため、他学生の問題意識や嗜好を否定、嘲笑するといった行為は論外です。まずは他者の発話に耳を傾けること。こうした理念に賛同する学生の参加を希望します。 ※1期のガイダンスでは、自己紹介のほか、ハラスメント防止の取り組みなどを紹介しながら、学生と教員ともに風通しの良いゼミにするためのディスカッションをおこないます。なお学生の意向を踏まえずに飲み会を行うことや、合宿参加の強制などは一切ありません。

演習（2年）

北村 智

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

メディア利用行動研究入門

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式で、テキストの輪読やグループディスカッション、発表を行ないます。

現代社会ではメディアを利用することなく生きていくのは難しくなっており、誰もが当たり前のようメディアを利用するようになってきています。例えば、LINEでコミュニケーションをしたり、Twitterで情報を集めたり、YouTubeをみて楽しんだりする人たちは特別な人たちではありません。そういった「現代社会に生きる人たちがメディアを使うこと」にどのような気持ちや意識が関わってくるのか、つまり「メディアを使う人の行動や心理」を考え、調べていくのが、メディア利用行動研究です。受講生の多くがスマートフォンを使ったり、SNSを使ったりする日常を過ごしていると思います。そういった自分たちの日常生活を、学問的に振り返って考えていくのがこの授業のテーマです。

この演習では、「メディアを使う人の行動や心理」に関係する基礎的な学術書の輪読を通して、基本的な知識や考え方の習得とともに、本の読み方や情報のまとめ方、発表や議論のやり方といった基本的なスキルの向上を目指します。前半は、メディア利用に関わる人間の行動や心理に関わる基礎的な図書をもとに、輪読と議論を進めてもらいます。後半は、受講生との話し合いで選定したより具体的なテーマをもったメディア利用行動やメディア環境に関わるテキストをもとに輪読と議論を進めてもらいます。なお、2023年度はスマートフォンやインターネットの利用行動、SNSでのコミュニケーションなどに重点をおいた文献の講読をしていく予定です。ただし、受講者の希望によっては2期にマスメディア利用に関する文献も検討します。

1期はテキストの輪読を進めていきます。半期をかけて1冊を読む予定です。文章の読み方、レジュメの作り方の解説は最初に行ないます。

2期もまた、指定したテキストの講読と議論を行なっていきます。学習の進展度合いに合わせて、より発展的な課題に取り組んでもらう可能性もあります。

授業参加、発表、課題に対してはその都度、フィードバックを行ないながら授業を進めていきます。

なお、遠隔授業を行なう必要が生じた場合には、Zoomを用いたリアルタイム双方向のオンライン授業（C型）で行なう予定です。

【到達目標】

この科目では、メディア・コミュニケーション論の専門知識を身につけることと、議論を通して問題発見と分析する力を身につけることを目標としています。加えて、以下の3点を到達目標とします。

- ・学術的文章を批判的に読解できるようになる
- ・自分の理解や考えを言葉にまとめ、他者に提示できるようになる
- ・メディア利用行動について、自分なりに考察できるようになる

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部/メディア社会学科 DP2)コミュニケーションを支えるメディアの特性と、その組織・企業における展開を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部 DP3)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

【事前・事後学習】

報告担当者はその回の文献についての発表準備を行ない、人数分のレジюмеを準備すること。報告担当者以外の受講者はその回の文献を熟読し、議論の準備を行なうこと。分からない用語などについては、自分で調べてくること。また、いずれの受講者も授業課題に取り組み、次週の議論に備えて授業の復習を行うこと。(事前・事後学習をあわせて4時間程度)

【授業計画】

第1回 演習のガイダンス

第2回 1期テキストの輪読(1)

第3回 1期テキストの輪読(2)

第4回 1期テキストの輪読(3)

第5回 1期テキストの輪読(4)

第6回 1期テキストの輪読(5)

第7回 1期テキストの輪読(6)

第8回 1期テキストの輪読(7)

第9回 1期テキストの輪読(8)

第10回 1期テキストの輪読(9)

第11回 1期テキストの輪読(10)

第12回 1期テキストの輪読(11)

第13回 1期テキストの輪読(12)

第14回 1期テキストの輪読(13)

第15回 1期のまとめ

第16回 2期テキストの輪読(1)

第17回 グループディスカッション(1)

第18回 2期テキストの輪読(2)

第19回 グループディスカッション(2)

第20回 2期テキストの輪読(3)

第21回 グループディスカッション(3)

第22回 2期テキストの輪読(4)

第23回 グループディスカッション(4)

第24回 2期テキストの輪読(5)

第25回 グループディスカッション(5)

第26回 2期テキストの輪読(6)

第27回 グループディスカッション(6)

第28回 2期テキストの輪読(7)

第29回 グループディスカッション(7)

第30回 1年間の演習のまとめ

【評価方法】

授業への出席を前提として、授業参加、発表、課題を総合的に評価します（100%）。

【教科書】

パトリシア・ウォレス『新版 インターネットの心理学』（NTT出版）

その他は授業中に指示します。

【参考文献】

演習の活動の中で適宜指示します。

【特記事項】

担当教員が1期に開講する「社会調査ワークショップ1」（社会調査士B科目）を必ず履修してください。またその他の「社会調査ワークショップ2・3・4」（社会調査士C科目、D科目、F科目）の履修を推奨します。

演習 (3, 4年)

北村 智

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

メディア利用行動の実証的研究

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式で、社会調査法を用いたグループ研究を行ないます。

この演習では、「メディアを利用する人の行動や心理」をテーマにして実証的な研究をする（＝4年次に卒論を書く）ための基礎的な力を養うことを目標とします。ここでいうメディアは、テレビ、新聞などのマスメディア、携帯電話やインターネットといった情報通信技術など、メディア全般を指します。このように、この演習で扱う「メディア」については特に縛りを設けず、履修者の関心に合わせます。ただし、「メディアを利用する人の行動や心理」に焦点をあてて演習を進める方針です。

グループでの研究テーマは、授業に参加する受講生たちが決めます。例えば、2021年度の演習では「Twitter依存」「ネット炎上に対する認識」「Instagramでのプライバシー開示」、2022年度の演習では「マッチングアプリ利用と幸福感」「マッチングアプリにおける自己呈示」「LINEスタンプを用いたコミュニケーション」「Twitterにおける情報の信頼」というテーマでグループ研究を行ないました。

1期から2期を通して、グループワークを通して自分たちの研究活動に取り組んでもらいますが、研究は質問紙調査票を用いた社会調査とその調査データの分析によって行ないます（テーマによってはオンライン調査もありうる）。つまり、この授業を通して調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の一連の過程における実践知識とスキルも学びます。具体的には研究課題の立案、調査の企画、仮説の構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者の選定とサンプリング、調査の実施（調査票の配布・回収）、集計、データ分析による仮説検証、学術的なレポート執筆（報告書の作成）を行ないます。

演習での活動や発表に対してはその都度、フィードバックを行ないます。また、課題やレポートに対しても個別にフィードバックを行ないながら、授業を進めていきます。

なお、遠隔授業を行なう必要が生じた場合には、Zoomを用いたリアルタイム双方向のオンライン授業（C型）で行なう予定です。

【到達目標】

この科目では、メディア・コミュニケーション論の専門知識を身につけることと、グループ研究を通して問題発見と分析する力を身につけることを目標としています。加えて、以下の3点を到達目標とします。

- ・メディア・コミュニケーションに関する実証的な研究を行ない、報告する基本的な力を身につける
- ・社会調査の一連の過程における実践知識とスキルを身につける
- ・根拠やデータにもとづいた議論ができるようになる

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP3) コミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP5)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

事後学習として各回の報告内容に対するコメントへの対応が、事前学習として次回に向けた新しい課題への取り組みがそれぞれ求められます(それぞれ2時間程度)。

【授業計画】

- 第1回 演習のガイダンスとグループ分け
- 第2回 調査の企画
- 第3回 先行研究・文献レビューと研究課題の立案(1)
- 第4回 先行研究・文献レビューと研究課題の立案(2)
- 第5回 研究課題の検討と仮説の構成(1)
- 第6回 研究課題の検討と仮説の構成(2)
- 第7回 仮説の検討と調査項目の設定(1)
- 第8回 仮説の検討と調査項目の設定(2)
- 第9回 仮説の検討と調査項目の設定(3)
- 第10回 質問文・選択肢の作成(1)
- 第11回 質問文・選択肢の作成(2)
- 第12回 質問文・選択肢の作成(3)
- 第13回 調査票の作成(1)
- 第14回 調査票の作成(2)
- 第15回 調査対象者の選定・条件設定・サンプリング
- 第16回 調査の実施(調査票の配布)
- 第17回 調査票の回収、データ入力作業、エディティング
- 第18回 データの基本的整理、データクリーニング
- 第19回 集計、記述統計(1)
- 第20回 集計、記述統計(2)
- 第21回 統計的データ分析と仮説検証(1)
- 第22回 統計的データ分析と仮説検証(2)
- 第23回 統計的データ分析と仮説検証(3)
- 第24回 統計的データ分析と仮説検証(4)
- 第25回 報告書(調査レポート)の作成(1)

第26回 報告書（調査レポート）の作成(2)

第27回 報告書（調査レポート）の作成(3)

第28回 報告書（調査レポート）の作成(4)

第29回 研究成果のプレゼンテーション

第30回 演習のまとめ

【評価方法】

授業への出席を前提として、演習での活動への参加度と課題・発表、最終レポートで総合的に評価します（100％）。

【教科書】

小宮あすか・布井雅人『Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける』（講談社）

【参考文献】

適宜指示します。

【特記事項】

夏季休暇期間中に授業での活動を行う日が数回あるかもしれません。詳しくは初回授業で説明します。

演習（2年）

北山 聡

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

基礎能力開発セミナー

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式で、グループワーク、発表を行います。学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを用いたC型で授業を実施します。

社会人として必要な基礎能力を身につけることを目標とした演習です。1期はコミュニケーション力（聞く力・話す力・読む力・書く力・プレゼンテーション力）と社会科学的なものの見方の基礎を身につけます。2期にはコミュニケーションに関わるテーマを自分で決め、論文とプレゼンテーションを各自が作成し、発表します。発表、課題に対してはその都度、フィードバックを行ないながら授業を進めていきます。

論文のテーマを発見するためには、興味深い現象を見つける必要がありますから、新聞を読むなどして世の中のニュースに触れることも重要です。政治や経済、さらにはさまざまな業界や企業に関わるビジネスニュースにも関心をもちましょう。これらが就職活動のための基礎知識を養うことにもなります。

このゼミに限らず、ゼミで学ぶことができるコミュニケーション力や社会科学的なものの見方は、社会に出てから役に立つ基礎能力を鍛えることにつながります。また自分の考えをプレゼンテーションや文章として、論理的な形でまとめ、説得的に人に話す能力もまた社会人としての基本的な能力です。

【到達目標】

この科目は、基本的なコミュニケーション力に加えて、問題の発見・分析・解決をする能力を養うことが目標です。具体的には、文献を読む力、自分の考えをまとめて書く力、人前で発表するプレゼンテーションを行う力を身につけていきます。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 DP3)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

【事前・事後学習】

1期においては授業に出される課題を事前学習として翌週までに行います。またグループワークによる作業は講義時間外に行う必要があります。夏休みには読書レポートなどの課題が課されます。2期においては論文執筆を行うため、これは授業時間以外における作業が中心となります。また輪番にて、写真を撮影し、翌週の授業で発表する課題が課されます。これらの事前・事後学習には、授業時間の2倍程度の時間が必要となります。

【授業計画】

第1回 ガイダンス

- 第2回 自己紹介と文章表現の基礎 (1)
- 第3回 自己紹介と文章表現の基礎 (2)
- 第4回 メディア機器の利用セミナー
- 第5回 読む力・書く力の育成講座 (1) (第6回～第14回のうち、4回程度グループワーク)
- 第6回 読む力・書く力の育成講座 (2)
- 第7回 読む力・書く力の育成講座 (3)
- 第8回 プレゼンテーション入門講座 (1)
- 第9回 プレゼンテーション入門講座 (2)
- 第10回 プレゼンテーション入門講座 (3)
- 第11回 読む力・書く力の育成講座 (4)
- 第12回 読む力・書く力の育成講座 (5)
- 第13回 読む力・書く力の育成講座 (6)
- 第14回 キャリアについて考える
- 第15回 1期のまとめと振り返り
- 第16回 プレゼンテーション技術の基礎 (1)
- 第17回 プレゼンテーション技術の基礎 (2)
- 第18回 読書レポートのプレゼンテーション(1)
- 第19回 読書レポートのプレゼンテーション(2)
- 第20回 少人数グループによる、各自の論文テーマの発表とディスカッション(1)
- 第21回 少人数グループによる、各自の論文テーマの発表とディスカッション(2)
- 第22回 論文テーマの個別相談
- 第23回 論文テーマのプレゼンテーション(1)
- 第24回 論文テーマのプレゼンテーション(2)
- 第25回 論文テーマのプレゼンテーション(3)
- 第26回 プレゼンテーションの振り返り
- 第27回 学生による成果プレゼンテーション (1)
- 第28回 学生による成果プレゼンテーション (2)
- 第29回 学生による成果プレゼンテーション (3)
- 第30回 1年間のまとめと振り返り

【評価方法】

出席を前提として、授業での議論やグループワークへの貢献度(40%)、論文やプレゼンテーシ

ヨンなど(60%)によって総合的に評価します。

【教科書】

苅谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社）

【参考文献】

授業中に紹介します

【特記事項】

意欲をもってゼミに参加する学生を希望します。特に本を読んだり、考えることが面倒だと感じる学生には全く向いていません。また授業以外の時間にも個別にプレゼンテーションの準備をする必要があるほか、授業時間外にグループワークを実施することもあるため、これらにも参加する意欲があることが必要です。

演習 (3, 4年)

北山 聡

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

プレゼンテーションを極める

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式で、グループワーク、発表を行います。学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを用いたC型で授業を実施します。

コミュニケーション研究の論文執筆とプレゼンテーション作成および発表を行います。これを通じて社会科学的分析の方法を学ぶと同時に、論理的文章表現とプレゼンテーションスキルを身につけます。1万字の論文を書くことを目標とします。

自分の関心を整理し、文献を検索し、本などの資料を精読し、自分の考えをまとめ、論理的文章として表現するという論文執筆のプロセスを一度体験することが、4年次の卒業論文の準備となります。

また平行して、毎週の授業のはじめには、学生が輪番で最近のニュースを日経BP社の雑誌記事から取り上げ、解説・コメントするプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションの訓練となると同時に各種業界に関心を持ち、経済ニュースを理解する知識を身につけることにつながります。企業活動に対する関心を高めることは、就職活動の助走ともなるでしょう。発表、課題に対してはその都度、フィードバックを行いません。

【到達目標】

この科目は、プレゼンテーション力を身につけて、卒業論文執筆に必要な論文作成のスキルと能力を身につけるものです。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP5)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

プレゼンテーションの準備やグループワークなどで、事前・事後学習あわせて授業時間の2倍程度(4時間程度)が必要となる。

【授業計画】

第1回 ガイダンス

第2回 論文の執筆方法の基礎と、資料調査方法について (1)

第3回 論文の執筆方法の基礎と、資料調査方法について (2)

第4回 論文の執筆方法の基礎と、資料調査方法について (3)

- 第5回 これまでのゼミ生の卒業論文の輪読 (1)
- 第6回 これまでのゼミ生の卒業論文の輪読 (2)
- 第7回 これまでのゼミ生の卒業論文の輪読 (3)
- 第8回 個別指導による論文テーマの決定 (1)
- 第9回 個別指導による論文テーマの決定 (2)
- 第10回 個別指導による論文テーマの決定 (3)
- 第11回 個別指導による論文テーマの決定 (4)
- 第12回 個別指導による論文テーマの決定 (5)
- 第13回 論文テーマのプレゼンテーション (1)
- 第14回 論文テーマのプレゼンテーション (2)
- 第15回 1期のまとめと振り返り
- 第16回 プレゼンテーションの基礎について (復習)
- 第17回 少人数グループによる各自の論文の議論 (1)
- 第18回 少人数グループによる各自の論文の議論 (2)
- 第19回 少人数グループによる各自の論文の議論 (3)
- 第20回 論文プレゼンテーション (1)
- 第21回 論文プレゼンテーション (2)
- 第22回 論文プレゼンテーション (3)
- 第23回 論文の修正作業 (1)
- 第24回 論文の修正作業 (2)
- 第25回 論文の修正作業 (3)
- 第26回 卒業論文の個別相談
- 第27回 卒業論文テーマの発表(1)
- 第28回 卒業論文テーマの発表(2)
- 第29回 卒業論文テーマの発表(3)
- 第30回 2期のまとめと振り返り

【評価方法】

出席を前提として、授業への参加度やグループワークへの貢献度(30%)、論文やプレゼンテーションなど(70%)によって総合的に評価します。

【教科書】

指定しない

【参考文献】

『日経ビジネス』など日経BP社の雑誌(図書館データベースにあるため購入不要)
このほか授業時に随時紹介します。

【特記事項】

履修者は「演習2年」からの継続生を想定しています。

演習（2年）

小林 誠

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

異文化のフィールドワーク

【授業の形態・方法・内容】

グローバル化が進み、日本においても異なった文化的な背景を持つ人々と接する機会が増えてきた。大学、バイト先、家の近く、家族親族、あるいは繁華街などで、いわゆる異文化の存在を感じることも珍しくなくなってきたのではないだろうか。ただし、異文化が「ものの見方」の差異であるならば、それは何も今になって始まったことではないし、わたしたちの身の回りの至る所にそれを見出すことができるだろう。

この授業は演習形式で、受講者は、ワークショップ、インタビュー、文献講読、フィールドワーク（現地調査）を通して、身近に存在する広い意味での異文化の人々と対話をはかり、彼らの「ものの見方」の理解をめざす。受講者には、直接、当事者から話を聞いたり、その場に行ったりする機会を設け、インタビューや現場見学を実践してもらう。

まず1期にワークショップ、インタビュー、文献講読を行い、そこで異文化の「ものの見方」への想像力を養う。ワークショップの教材や文献講読の資料などはこちらで指定する。2期では実際に異文化の「ものの見方」の世界を多少なりとも垣間見ることを目指して、受講者がそれぞれ個人研究を進めていく。各自が調査計画を立てて調査を実施し、調査結果を発表し、最終的に報告書の形でまとめる。2期の個人研究は、広い意味での異文化に関するものであるならば、具体的なテーマは何でも構わない。

本授業では、受講者は文献講読と現場での調査を通して、多様な人々と対話をはかり、彼らの「ものの見方」の理解をめざす。自分にとって興味深いテーマとフィールドを見つける努力、多様な人々と対話するための勇気と思いやりが必要となるが、文献と現場での経験を通して多くのことを学べる授業となるだろう。

なお、遠隔授業の必要が生じた際には、Zoom等を用いてリアルタイムの双方向の授業（C型）を実施する。また、調査は新型コロナウイルスの感染防止に最大限留意した上で実施する。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- ・異文化の人々についての理論的、経験的知識を深め、身近な人々の異なった「ものの見方」についての想像力を育成する。
- ・他者と実りある対話をするための基礎的なコミュニケーション能力を高め、他者の生についての共感力を涵養する。
- ・受講者自らが問いをたて、自らその答えを探究する能力を獲得する。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

【事前・事後学習】

本演習では、受講者自ら調査を立案・実施するなど、積極的な取り組みが必要となる。また、調査の実施はいうまでもなく、事前準備、結果のまとめ、発表、報告書の作成などにおいて、授業時間外での活動を伴う。文献講読やワークショップ、インタビューなどの際には、発表者はいうまでもなく受講者全員が事前に資料を熟読して演習に臨む必要がある。毎回4時間程度の授業外学習時間を必要とする。

【授業計画】

第1回 インTRODクシヨソ

第2回 発表：異文化としての私

第3回 発表：異文化としての私

第4回 ワークシヨツプ：知識と知恵

第5回 ワークシヨツプ：贈与と交換

第6回 調査：留学生にインタビュー

第7回 発表：文献講読

第8回 発表：文献講読

第9回 発表：文献講読

第10回 発表：文献講読

第11回 発表：文献講読

第12回 発表：文献講読

第13回 発表：文献講読

第14回 発表：文献講読

第15回 総括：1期の総括

第16回 ガイダソス：個人研究

第17回 ワークシヨツプ：調査法（インタビューする／される）

第18回 ワークシヨツプ：調査法（参与観察）

第19回 発表：調査計画

第20回 発表：調査計画

第21回 発表：調査計画

第22回 発表：調査計画

第23回 ワークシヨツプ：調査倫理

第24回 発表：調査結果

第25回 発表：調査結果

第26回 発表：調査結果

第27回 発表：調査結果

第28回 発表：調査結果

第29回 ワークショップ：原稿の推敲

第30回 総括：報告書の合評会

【評価方法】

授業での貢献度（毎回1度は発言を求める）：40%

報告書（各自6,000字程度）：60%

授業内での発表などはその都度、フィードバックを行う。

報告書は個別にフィードバックを行う。

【教科書】

指定しない。

【参考文献】

授業中に指示する。

【特記事項】

授業計画が変更される場合は事前に知らせる。

夏季休業中に、フィールドワーク実習としてゼミ合宿を行う予定である。必ず参加しなければならないというわけではないが、積極的な参加を期待している。条件が揃えば、海外ゼミ合宿も行う。

演習 (3, 4年)

小林 誠

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

人間至る所フィールドあり

【授業の形態・方法・内容】

人が住むこの世界は学びに満ち溢れている。ここでいう学びとは、講義を聞いたり、本を読んだりすることだけではない。いろいろな場所に行って、見たり、聞いたり、触ったり、食べたり、あるいは、人に会って質問をしたり、色々な話を聞いたりすることで私たちは様々なことを学べる。能動的な学びの現場をフィールドと呼ぶならば、この世界は至る所がフィールドである。

この授業は演習形式である。1期ではまず文献講読を行い、各自の問題意識を深める。文献資料は各自の調査テーマに合わせてこちらで指定する。それを受けて各自が個人研究を進める。調査計画を策定し、夏季休業中に調査を実施する。2期では、調査結果を発表し、それをどのように解釈することができるのかを議論し、最終的に報告書にまとめる。個人研究は、フィールドワークやインタビュー、参与観察といった人類学的な調査を実践するのであれば、どのようなテーマ（異文化、多文化共生、国際交流、食文化、観光、家族、歴史、福祉、環境、教育、言語、宗教、民族、経済、経営、法、芸術、地域、コミュニケーション、メディア、スポーツ）でも構わない。

本授業では、受講者は文献講読と現場での調査を通して社会・文化を具体的かつ理論的に考察していく。現場での経験と文献の読み込みを対話させることで、ものごとを深く学ぶことができることを期待している。

なお、遠隔授業の必要が生じた際には、Zoom等を用いてリアルタイムの双方向の授業（C型）を実施する。また、調査は新型コロナウイルスの感染防止に最大限留意した上で実施する。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- ・社会・文化についての理論的、経験的知識を深める。
- ・受講者自らが問いをたて、自らその答えを探求する能力を獲得する。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

【事前・事後学習】

本演習では、受講者自ら調査を立案・実施するなど、積極的な取り組みが必要となる。また、調査の実施はいうまでもなく、事前準備、結果のまとめ、発表、報告書の作成などにおいて、授業時間外での活動を伴う。文献講読やワークショップ、インタビューなどの際には、発表者はいうまでもなく受講者全員が事前に資料を熟読して演習に臨む必要がある。毎回4時間程度の授業外学習時間を必要とする。

【授業計画】

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 ワークショップ：フィールド
- 第3回 発表：文献講読
- 第4回 発表：文献講読
- 第5回 発表：文献講読
- 第6回 発表：文献講読
- 第7回 発表：文献講読
- 第8回 発表：文献講読
- 第9回 発表：文献講読
- 第10回 ワークショップ：調査法
- 第11回 発表：調査計画
- 第12回 発表：調査計画
- 第13回 発表：調査計画
- 第14回 発表：調査計画
- 第15回 ワークショップ：調査倫理
- 第16回 ガイダンス：調査、分析、記述
- 第17回 発表：調査結果
- 第18回 発表：調査結果
- 第19回 発表：調査結果
- 第20回 発表：調査結果
- 第21回 発表：調査結果
- 第22回 ワークショップ
- 第23回 発表：先行研究と調査結果の再分析
- 第24回 発表：先行研究と調査結果の再分析
- 第25回 発表：先行研究と調査結果の再分析
- 第26回 発表：先行研究と調査結果の再分析
- 第27回 発表：先行研究と調査結果の再分析
- 第28回 ワークショップ：原稿の推敲
- 第29回 ワークショップ：原稿の推敲
- 第30回 総括：報告書の合評会

【評価方法】

授業での貢献度（毎回1度は発言を求める）：40%

報告書（各自12,000字程度）：60%

授業内での発表などはその都度、フィードバックを行う。

報告書は個別にフィードバックを行う。

【教科書】

指定しない。

【参考文献】

授業中に指示する。

【特記事項】

授業計画が変更される場合は事前に知らせる。

夏季休業中に、フィールドワーク実習として、伊豆諸島（予定）にて2泊程度のゼミ合宿を行う予定である。必ず参加しなければならないというわけではないが、積極的な参加を期待している。条件が揃えば、海外ゼミ合宿も行う。

演習（2年）

駒橋 恵子

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

経済ニュースと広報課題の研究

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式で行い、新聞や雑誌の中から経済関係の記事を取り上げて読み、のニュースはどのようにして紙面になったのかを検討する。具体的には、企業や商品に関するニュースがどのように報道されているのか（記事の内容）、取材記事・記者会見・インタビューの区別、広報的仕掛けの有無、ニュースリリースと報道の比較などを分析していく。

そのほか、企業のweb サイトやCSR レポート（または統合報告書）の比較等、企業コミュニケーションに関する実践的な課題について、各自が担当企業を決めて調査分析を行い、レジュメを作成して発表する。

毎回の授業では全員の発言を求め、理解度を確認しながら進めていく。さらに個人発表については随時教員がコメントを行い、フィードバックを行って理解の定着を図る。

授業は対面を原則とするが、遠隔授業になった場合はZoomによるオンライン授業（C型）とする。

【到達目標】

この授業の到達目標は、企業のコミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力を養い、新聞やテレビの企業ニュースの背景を理解できるようになることと、自分で各企業の広報戦略・コミュニケーション戦略の方法、メディアの経済的影響を考察する力をつけることである。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部/メディア社会学科 DP2)コミュニケーションを支えるメディアの特性と、その組織・企業における展開を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部/国際コミュニケーション学科 DP2)国境を越えた移動によりグローバル化の進む現代社会における他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

【事前・事後学習】

自主的に新聞・雑誌の経済ニュースや公式Webサイトを読み解き、課題レポートを作成するためには、授業時間の2倍程度の時間が必要となる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 全国新聞の特徴と構成の比較

第3回 全国新聞の製品記事の内容分析

第4回 全国新聞の企業記事の内容分析

- 第5回 全国紙の東京・大阪本社別記事比較
- 第6回 公式Webサイトの企業比較(1)
- 第7回 公式Webサイトの企業比較(2)
- 第8回 公式Webサイトの企業比較(3)
- 第9回 地方紙の比較と通信社の役割
- 第10回 ニュースリリースと製品記事の比較(1)
- 第11回 ニュースリリースと製品記事の比較(2)
- 第12回 ニュースリリースと製品記事の比較(3)
- 第13回 経済新聞の報道分析(1)
- 第14回 経済新聞の報道分析(2)
- 第15回 前期のまとめと夏期課題の説明
- 第16回 夏季課題の発表(1)
- 第17回 夏季課題の発表(2)
- 第18回 経済雑誌の特徴分析
- 第19回 経済雑誌の記事分析(1)
- 第20回 経済雑誌の記事分析(2)
- 第21回 ニュースリリースと企業記事の比較(1)
- 第22回 ニュースリリースと企業記事の比較(2)
- 第23回 ニュースリリースと企業記事の比較(3)
- 第24回 経済雑誌の特集分析
- 第25回 CSRレポートの企業別比較(1)
- 第26回 CSRレポートの企業別比較(2)
- 第27回 CSRレポートの企業別比較(3)
- 第28回 経済雑誌の人物インタビュー分析
- 第29回 企業不祥事報道の分析
- 第30回 1年間のまとめ

【評価方法】

授業参加によるクラスへの貢献度、レポート課題の内容、授業での発表内容などを総合的に評価する（100%）。

【教科書】

授業中に適宜指示する

【参考文献】

授業中に適宜指示する

【特記事項】

基本的にゼミ参加者によるディスカッションで議論を深めることを期待しているので、新聞・雑誌を読むのが好きで、積極性のある学生を歓迎する。3年以降も演習を希望する場合は、2年生のうちに「マーケティング論」「広報論」を履修していることが望ましい。

演習 (3, 4年)

駒橋 恵子

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

経済ニュースと広報実務の研究

【授業の形態・方法・内容】

多数の企業記事を読み込み、内容を分析すると同時に、自分が情報発信する立場になって、広報業務の意味について理解を深める。授業は経済記事の分析などの課題を各自が順に発表する形式と、広報課題のディベート、商品企画・記者発表会のグループワーク、そして個人でのゼミ論文執筆、という4形態をとる。経済ニュースを題材にして、報道記事の読み方やメディア広報の方法などを体験的に学習する。

演習では毎回、全員の発言を求め、各自の理解度を確認しながら進めていく。さらに、個人やグループでの発表については、随時教員がコメントを行い、フィードバックを行って理解の定着を図る。

授業は対面を原則とするが、遠隔授業になった場合はZoomによるオンライン授業（C型）とする。

【到達目標】

2年次の演習を基礎として、引き続き企業のコミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力を培う。さらに、新商品企画と模擬記者発表会を行って、自らが情報発信する立場になった場合に必要な広報の課題を意識する。さらに、記者発表会のプレゼンテーションや、広報課題に関するディベートを行うことによって、自分のアイデアや企画を創造的に表現する方法を体験的に習得する。また、各自が企業コミュニケーションや広報に関するゼミ論文を執筆し、4年次で卒業論文を書くために必要な基礎的な知識を身につけ、企業コミュニケーションとメディアの関係についての理解を深める。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP3) コミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4) コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP5) 自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

多数の経済記事を自主的に読み比べると同時に、広報課題のディベート準備や商品企画・発表プレゼンの準備、ゼミ論文の執筆など、授業時間の2倍程度の時間が必要となる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 経済雑誌の特集分析(1)

第3回 経済雑誌の特集分析(2)

- 第4回 ディベート課題のオリエンテーション
- 第5回 経済雑誌の特集分析(3)
- 第6回 広報テーマの探求とディベート準備(1)
- 第7回 広報テーマの探求とディベート準備(2)
- 第8回 広報テーマの探求とディベート準備(3)
- 第9回 広報課題のディベート(1)
- 第10回 広報課題のディベート(2)
- 第11回 広報課題のディベート(3)
- 第12回 広報課題のディベート(4)
- 第13回 ゼミ論文テーマの検討(1)
- 第14回 ゼミ論文テーマの検討(2)
- 第15回 企業博物館見学(1)
- 第16回 夏季課題の報告
- 第17回 新商品企画&記者発表会の課題オリエンテーション
- 第18回 ゼミ論文中間報告(1)
- 第19回 新商品企画のための市場・需要分析（グループ討議）
- 第20回 経済雑誌の特集分析(4)
- 第21回 新商品の企画立案（グループ討議）
- 第22回 経済雑誌の特集分析(5)
- 第23回 新商品企画の総仕上げとプレスリリース研究（グループ討議）
- 第24回 ゼミ論文中間報告(2)
- 第25回 経済雑誌の特集分析(6)
- 第26回 記者発表会準備・プレスリリース作成
- 第27回 模擬・新商品記者発表会
- 第28回 ゼミ論文発表(1)
- 第29回 ゼミ論文発表(2)
- 第30回 企業博物館見学(2)

【評価方法】

授業参加によるクラス貢献度と、商品企画課題、レポート課題、・ゼミ論文等を総合的に評価する（100点）。

【教科書】

授業中に適宜指示する。

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

【特記事項】

2～3年生で「企業コミュニケーション論」「マーケティング論」「広報論」を履修していることが望ましい。

演習（2年）

小山 健太

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

異文化マネジメント研究〈基礎学習〉

【授業の形態・方法・内容】

授業形態は演習科目で、輪読やグループワーク、発表を行います。

学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを用いたC型で授業を実施します。

本演習では、グローバル企業の「異文化マネジメント」に軸足をおいて、組織心理学・キャリア心理学に関する下記テーマを多面的に学習・研究します。将来、海外で働きたい学生、国内や国外で外国人材と一緒に働くことに興味がある学生が、この演習を履修することを想定しています。そうした学生が卒業後にグローバル人材として活躍できるように、研究や社会調査の活動を通じて、専門性と粘り強い人間力を養います。

また、3年次には社会調査（具体的にはアンケート調査と1万字以上のゼミ論文の執筆）を実施して、学術論文大会である「国際ビジネス研究インターカレッジ大会」に出場することを目指します。

- ・グローバル企業の異文化マネジメント
- ・グローバル人材のキャリア開発
- ・ダイバーシティ&インクルージョン
- ・リーダーシップ
- ・モチベーション
- ・人材育成
- ・上司部下関係 など

1期では入門編として、組織心理学・キャリア心理学への関心を高めるために、輪読による基礎的概念の理解や、ゲスト講義により企業組織の実際を学習します。期末レポートは3000文字以上を予定しています。

2期では、異文化マネジメントについて学習します。そのうえで、3年生以降で実証研究に取り組めるように、研究方法について理解し、先行研究レビューに取り組みます。期末レポートは3000文字以上を予定しています。

また、1年を通しての毎回の宿題として、英語のニュース記事を読んでミニレポート提出します。

授業内での発言・発表について、その都度、フィードバックを行います。

授業時間外のグループワークが必要です。また、宿題は1年生のときに経験していないほど多くの量がありますし、授業中の発言も重視します。さらに、3年次には社会調査（アンケート調査）をグループワークで取り組み、ゼミ論文（1万字以上）を執筆します。主体的に参加する意思のない者、社会調査のスキル向上に関心のない者は、履修を控えてください。

【到達目標】

この演習の到達目標は下記の4項目です。

- (1) 異文化マネジメントという観点から、日本企業内部の組織コミュニケーションの課題を検討する
- (2) 他国の企業との比較から、日本企業における人材マネジメントの特徴を理解する
- (3) 働くことの現実を知り、自分の関心領域に気づく
- (4) グループワークができるようになる

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部/メディア社会学科 DP2)コミュニケーションを支えるメディアの特性と、その組織・企業における展開を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部/国際コミュニケーション学科 DP2)国境を越えた移動によりグローバル化の進む現代社会における他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

【事前・事後学習】

事前学習として、授業中に発言できるように、指定する課題図書 of 熟読、関連文献・資料の収集をすること。また、英語のニュース記事を読んでミニレポートを毎回提出すること。(2時間程度)

事後学習として、授業時間外のグループワークで、学習内容を振り返り、発表準備をすること(2時間程度)。

【授業計画】

第1回 1期のイントロダクション

第2回 演習(3・4年)によるセッション

第3回 受講者の関心領域の共有

第4回 ケース検討(グローバル人材)

第5回 輪読(職能資格制度)

第6回 輪読(日本企業における人材育成)

第7回 ケース検討(日本企業と外資系企業の比較)

第8回 メンバーシップ型人事とジョブ型人事 【ゲスト講義の予定】

第9回 輪読(自律的キャリア開発)

第10回 輪読(異文化マネジメント)

第11回 異文化マネジメントの実際 【ゲスト講義の予定】

第12回 グループワーク(日本型人事の強みと課題)

第13回 レポートの書き方

第14回 グループ発表(日本型人事の強みと課題)

第15回 期末プレゼンテーション大会

- 第16回 2期のイントロダクション
- 第17回 輪読（ダイバーシティ・マネジメント）
- 第18回 ケース検討（ダイバーシティ・マネジメント）
- 第19回 ケース検討（組織内言語戦略）
- 第20回 輪読（カルチュラル・インテリジェンス）
- 第21回 日本で働く海外出身人材 【ゲスト講義の予定】
- 第22回 海外で働く日本人 【ゲスト講義の予定】
- 第23回 レクチャー 「リサーチデザイン」
- 第24回 レクチャー 「先行研究レビュー」
- 第25回 研究テーマの検討
- 第26回 グループ発表（先行研究レビュー） 1
- 第27回 グループ発表（先行研究レビュー） 2
- 第28回 グループ発表（先行研究レビュー） 3
- 第29回 グループ発表（先行研究レビュー） 4
- 第30回 期末プレゼンテーション大会

【評価方法】

授業参加点、グループ発表、1期末レポート、2期末レポートで総合的に評価します（100%）。

ただし、1期末レポートおよび2期末レポートのうち1つでも未提出の場合は、原則として単位を付与しません。

【教科書】

なし

【参考文献】

授業内で適宜指示する

【特記事項】

下記授業は本演習と密接に関連するため、2年次で受講することを強く推奨します。本演習の希望者が多い場合は、ゼミ申込書等で下記授業の履修意思を明示した者を優先します。

「異文化マネジメント論」

「組織コミュニケーション論」

「社会調査ワークショップ」等の社会調査士資格認定科目

受講者の関心や人数により、授業内容を変更する場合がありますが、その際には受講者全員に通知します。

演習 (3, 4年)

小山 健太

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

異文化マネジメントの研究<社会調査実践>

【授業の形態・方法・内容】

授業形態は演習科目で、1期2期を通じて、グループワークによる調査実施および調査報告書（ゼミ論文）の執筆（1万字以上）を行います。

学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを用いたC型で授業を実施します。

本演習では、グローバル企業の「異文化マネジメント」に軸足をおいて、組織心理学・キャリア心理学に関する下記テーマに関連するテーマで研究に取り組みます。

- ・グローバル企業の異文化マネジメント
- ・グローバル人材のキャリア開発
- ・ダイバーシティ&インクルージョン
- ・リーダーシップ
- ・モチベーション
- ・人材育成
- ・上司部下関係 など

この演習を通して調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の一連の過程における実践知識とスキルを学びます。具体的には研究テーマの立案、先行研究レビュー、仮説構築、調査項目の設定、調査票の作成、調査の実施（調査票の配布・回収）、集計、統計的データ分析による仮説検証、学術的な調査報告書（ゼミ論文）の執筆（1万字以上）を行ないます。

さらに、学術論文大会である「国際ビジネス研究インターカレッジ大会」に出場することを目指します（1～2グループ）。

また、1年を通しての毎回の宿題として、英語のニュース記事を読んでミニレポート提出します。

授業内での発言・発表について、その都度、フィードバックを行います。

将来、海外で働きたい学生、国内や国外で外国人材と一緒に働くことに関心がある学生が、この演習を履修することを想定しています。そうした学生が卒業後にグローバル人材として活躍できるように、研究や社会調査の活動を通じて、専門性と粘り強い人間力を養います。

学生の自立的な取り組みが前提であり、授業外での作業も多く発生しますので、主体的に参加する意思のない者、社会調査のスキル向上に関心のない者は、履修を控えてください。

【到達目標】

この演習の到達目標は下記の3項目です。

(1) 組織心理学・キャリア心理学に関する実証的な研究を行ない、報告する基本的な力を身につける

(2) 社会調査の一連の過程における実践知識とスキルを身につける

(3) グループワークを通してチームワークに必要なスキルを身につける

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4) コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

【事前・事後学習】

事前学習として、授業で発表できるように、授業時間外にグループワークで討議・作業をすること。また、日経新聞の記事を読んでレポートを毎週書くこと。(2時間程度)

事後学習として、授業内容をふまえて、研究の進捗を振り返り、課題をみつけ、解決策を検討すること。(2時間程度)

【授業計画】

第1回 イン트로ダクション

第2回 レクチャー 「リサーチデザインと先行研究」

第3回 レクチャー 「研究計画書の作成方法」

第4回 先行研究・文献レビューと研究テーマの立案 1

第5回 先行研究・文献レビューと研究テーマの立案 2

第6回 先行研究・文献レビューと研究テーマの立案 3

第7回 研究テーマの検討と仮説の構成 1

第8回 研究テーマの検討と仮説の構成 2

第9回 レクチャー 「質問項目の作成方法」

第10回 仮説の検討と質問項目の設定 1

第11回 仮説の検討と質問項目の設定 2

第12回 仮説の検討と質問項目の設定 3

第13回 調査票の作成 1

第14回 調査票の作成 2

第15回 調査票の作成 3

第16回 サンプルング、調査の実施 (調査票の配布・回収)

第17回 データクリーニング

第18回 集計、記述統計 1

第19回 集計、記述統計 2

第20回 集計、記述統計 3

第21回 統計的データ分析と仮説検証 1

第22回 統計的データ分析と仮説検証 2

第23回 統計的データ分析と仮説検証 3

第24回 統計的データ分析と仮説検証 4

第25回 調査報告書（ゼミ論文）の作成 1

第26回 調査報告書（ゼミ論文）の作成 2

第27回 調査報告書（ゼミ論文）の作成 3

第28回 調査報告書（ゼミ論文）の作成 4

第29回 研究成果のプレゼンテーション

第30回 本演習のまとめ

【評価方法】

授業参加点、研究計画書、調査報告書（ゼミ論文）で総合的に評価します（100%）。

ただし、研究計画書、調査報告書（ゼミ論文）のうち1つでも未提出の場合は、原則として単位を付与しません。

【教科書】

小塩真司（2018）『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 [第3版]』東京図書

【参考文献】

小塩真司（2020）『研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析[第3版]』東京図書

その他、授業内で適宜指示する

【特記事項】

下記授業は本演習と密接に関連するため、未履修の場合は3年次で受講することを強く推奨します。本演習の希望者が多い場合は、ゼミ申込書等で下記授業の履修意思を明示した者を優先します。

「異文化マネジメント論」

「組織コミュニケーション論」

「社会調査ワークショップ」等の社会調査士資格認定科目

受講者の関心や人数により、授業内容を変更する場合がありますが、その際には受講者全員に通知します。

演習（2年）

佐々木 裕一

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

デジタルと人間および社会の関係を知る

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習科目である。テキストに関する討議やグループワークを行う。毎回学生の取り組みに対して授業内でフィードバックを行う。

1期：「情報の量と質」「スマートフォンと脳」「ビッグデータとAI」といったテーマを取り上げて（一部は2期にも実施）、デジタル技術が人間や現代社会に幅広く及ぼしている影響力を知り、考えます。

2期：各自が夏休みに読破した研究テーマに関連した本のプレゼンテーションを行います。またあるテーマや企業についてデータベースを活用しながら調べるスキルのトレーニングをします。またそれらの結果のプレゼンテーションも行います。

【到達目標】

現代のデジタルコミュニケーション環境における課題を見つけ、それについて考え、それにどう自分が関わっていくかを見つけていく力を養成します。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部/メディア社会学科 DP2)コミュニケーションを支えるメディアの特性と、その組織・企業における展開を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部 DP3)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

文献を読んで要約を作るなどに代表される予習は毎週求められます。また授業中に会った新しい用語を調べて、自分で使えるように習得することも求められます。各回授業時間の2倍程度の予習復習が必要です。

【授業計画】

第1回 自己紹介と志望理由の共有

第2回 テーマ1の検討・理解

第3回 テーマ2の検討・理解

第4回 デジタルマーケティング実習（1）

- 第5回 デジタルマーケティング実習 (2)
- 第6回 デジタルマーケティング実習 (3)
- 第7回 テーマ3の検討・理解
- 第8回 グループワーク(1)
- 第9回 グループワーク(2)
- 第10回 グループワーク(3)
- 第11回 テーマ4の検討・理解
- 第12回 テーマ5の検討・理解
- 第13回 個人研究テーマのブラッシュアップ (1)
- 第14回 個人研究テーマのブラッシュアップ (2)
- 第15回 1期のまとめと振り返り
- 第16回 研究関連図書のプレゼンテーション (1)
- 第17回 研究関連図書のプレゼンテーション (2)
- 第18回 研究関連図書のプレゼンテーション (3)
- 第19回 将来構想の発表 (30歳の私は?)
- 第20回 テーマ6の検討・理解
- 第21回 「学ぶ」ことと「考える」ことの違い
- 第22回 ロジックツリーと発想
- 第23回 言葉とMECE
- 第24回 ロジックツリー作成のテクニック
- 第25回 グループワーク(4)
- 第26回 グループワーク(5)
- 第27回 テーマ7の検討・理解
- 第28回 テーマ8の検討・理解
- 第29回 ゼミレポートの執筆
- 第30回 2期のまとめと振り返り

【評価方法】

ゼミへの出席は前提で、欠席が学期に3回、年4回となれば不合格です。授業時の発言やグループワークでの貢献度（25%）、通常課題の準備程度（25%）、プレゼンテーション（25%）、ゼミレポート（25%）で総合的に評価します。

【教科書】

なし

【参考文献】

授業中の議論や学生の選択した研究テーマに応じて個別に指示します。

【特記事項】

現在の現象・課題に加え、AIが組み込まれる社会で生じるだろう課題についても想像し、自分なりの生き方・働き方を見つけようとする未来志向の学生を特に望みます。このゼミの履修が決定したら、2023年度に「コンピュータコミュニケーション」を履修してください。

演習 (3, 4年)

佐々木 裕一

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

デジタルと人間および社会の関係を事例から論じる

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式で個人研究を行います。毎回学生の取り組みに対して授業内でフィードバックを行う。

各学生が5月までにテーマを決めて10,000字の「ゼミ論文」を書きます（10月中旬最終提出）。単なる現象の記述ではなく、設定した「問い」に対して、データを用いて一定の説得力をもって「答え」を与えます。またゼミ論文の内容を複数回プレゼンテーションして、その技術を磨くと同時に内容への参加者全員の理解を深めます。

【到達目標】

現代のデジタルコミュニケーション環境における課題を見つけ、それについて考え、それにどう自分が関わっていくかを見つけていく力を養成します。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP3) コミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4) コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP5) 自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

10月まではゼミ論文が中心課題になり、それらへの取り組みが継続的に必要になります。学期中はほぼ1ヶ月に1度その進捗報告が求められ、夏休み中にもデータ収集や分析、ゼミ論文の執筆が必要になります。学期中に要する準備時間はおよそ各回授業時間の2倍程度ですが、計画的に作業を進めないと不合格になります。

【授業計画】

第1回 顔合わせとオリエンテーション

第2回 ゼミレポートのプレゼンテーション (1)

第3回 ゼミレポートのプレゼンテーション (2)

第4回 データベースの紹介と実習

- 第5回 ゼミ論文の構想発表 (1)
- 第6回 ゼミ論文の構想発表 (2)
- 第7回 ゼミ論文の構想発表 (3)
- 第8回 ゼミ論文テーマのブラッシュアップのためのグループワーク
- 第9回 グループワークの発表 (1)
- 第10回 グループワークの発表 (2)
- 第11回 ゼミ論文の進捗報告 (1)
- 第12回 ゼミ論文の進捗報告 (2)
- 第13回 ゼミ論文の進捗報告 (3)
- 第14回 就職について考える
- 第15回 1期のまとめと振り返り
- 第16回 ゼミ論文草稿へのフィードバック (1)
- 第17回 ゼミ論文草稿へのフィードバック (2)
- 第18回 ゼミ論文のプレゼンテーション準備
- 第19回 ゼミ論文のプレゼンテーションと議論 (1)
- 第20回 ゼミ論文のプレゼンテーションと議論 (2)
- 第21回 ゼミ論文のプレゼンテーションと議論 (3)
- 第22回 ゼミ論文のプレゼンテーションと議論 (4)
- 第23回 卒業論文の構想発表 (1)
- 第24回 卒業論文の構想発表 (2)
- 第25回 卒業論文の個別相談
- 第26回 卒業論文の個別相談
- 第27回 卒業論文の進捗報告 (1)
- 第28回 卒業論文の進捗報告 (2)
- 第29回 卒業論文の進捗報告 (3)
- 第30回 2期のまとめと振り返り

【評価方法】

ゼミへの出席は前提で、欠席が学期に3回、年4回となれば不合格です。授業時の発言やグループワークでの貢献度（25%）、ゼミ論文（50%）、ゼミ論文のプレゼンテーション（25%）で総合的に評価します。

【教科書】

なし

【参考文献】

学生の選択した研究テーマに応じて個別に指示します。

【特記事項】

履修者は「演習2年」からの継続生を想定していますが、その他の学生も受け容れます。ただし研究テーマを持ち、自分で調べて書くことを覚悟した学生に限ります。新規履修希望者は3月選考面接時に、これまでの履修科目と成績一覧（tku ポータルから取得可能）を持参すること。「演習2年」シラバスも読み、継続生がどんな知識や力をつけているのか理解し、自分の研究テーマをよく考えておくこと。

演習（2年）

柴内 康文

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

メディア、コミュニケーションと人間関係：基礎的理解

【授業の形態・方法・内容】

本授業の形態は演習科目である。

本演習の目標は(1)受講生が関心を持つテーマについて専門書や論文などを読みディスカッションすることを通じ、基礎的知識やものの見方を習得すること、また(2)自ら学び、考えたことを論理的にまとめ、説得的にプレゼンテーションする技術を身につけることである。担当者はメディア（テレビ等のマスメディアから、スマートフォンのようなコミュニケーションメディアを含む）が、社会認識や人間関係に与える影響を教育研究のテーマとしてきた。例えばソーシャルメディアで互いにつながり、ニュースもそのような情報源を通じて知る時代に、人々のものの見方、また人間関係はどのように変化するだろうか。以上のようなトピック、また広い意味でそれに関連する領域について学生の関心をふまえながら、一人では読みにくいような書籍・論文を輪読し、3年次以降の演習また卒業論文の事前準備となることを目指す。

内容は文献講読を中心とするが、履修者の関心などを把握した上で、どのようなものを読み議論するのが適切か決めていくことになる。文献講読に先立ち特に1期には、文献を読み解くためのクリティカルシンキング（批判的思考法）の技法について新聞記事等を題材としながら学ぶ。

本演習は原則的に対面で行うことを予定している。ただし開講期間中で遠隔授業に切り替わった場合にはC型により実施する。

【到達目標】

心理学・社会学の視点から、表題内容について、自らの視点を持てるようになることと、自らの考えをまとめて説得的にプレゼンテーションできる能力の育成

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部/メディア社会学科 DP2)コミュニケーションを支えるメディアの特性と、その組織・企業における展開を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部 DP3)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

【事前・事後学習】

全員がテキストを毎回事前に読み、論点を示すコメントペーパーを作成、配布する。発表者は加えてレジメを作成する。演習後もオンライン上で可能な限りのフォローを行うのでそれを通じ理解を深める（4時間程度）。

【授業計画】

- 第1回 インTRODクシヨン(1期)
- 第2回 クリティカルシンキングのトレーニング・報告(1)
- 第3回 クリティカルシンキングのトレーニング・報告(2)
- 第4回 クリティカルシンキングのトレーニング・報告(3)
- 第5回 クリティカルシンキングのトレーニング・報告(4)
- 第6回 クリティカルシンキングのトレーニング・報告(5)
- 第7回 クリティカルシンキングのトレーニング・報告(6)
- 第8回 クリティカルシンキングのトレーニング・報告(7)
- 第9回 クリティカルシンキングのトレーニング・報告(8)
- 第10回 クリティカルシンキングのトレーニング・報告(9)
- 第11回 文献報告の技法
- 第12回 文献購読(1)
- 第13回 文献購読(2)
- 第14回 文献購読(3)
- 第15回 文献購読(4)
- 第16回 インTRODクシヨン(2期)
- 第17回 文献購読(5)
- 第18回 文献購読(6)
- 第19回 文献購読(7)
- 第20回 文献購読(8)
- 第21回 文献購読(9)
- 第22回 文献購読(10)
- 第23回 文献購読(11)
- 第24回 文献購読(12)
- 第25回 文献購読(13)
- 第26回 文献購読(14)
- 第27回 文献購読(15)
- 第28回 文献購読(16)
- 第29回 文献購読(17)
- 第30回 演習のまとめ

【評価方法】

演習への参加状況70%、担当報告30%。

毎回の出席が必須であり、その上で積極的な参加や報告成果を評価する。1期・2期それぞれについて合格基準を満たすことを単位認定の基本的前提とする。

報告やコメントについては都度、および事後的にインターネットを通じたフィードバックを行う。

【教科書】

演習内で適宜指示する。

【参考文献】

演習内で適宜指示する。

【特記事項】

演習担当者の開講する他科目、また「社会心理学」「コミュニケーション心理学」およびメディア社会学科配当各科目は演習内容と関連深いので履修を勧める。3年演習を経て卒論指導希望の場合は調査系ワークショップ科目、特に統計分析関連科目の受講が望まれる（2年から履修可）。

演習計画については、登録学生の人数や興味関心などもふまえて変更する可能性があり、その場合は事前に説明する。

演習 (3, 4年)

柴内 康文

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

メディア、コミュニケーションと人間関係の探求

【授業の形態・方法・内容】

本授業の形態は演習科目である。

大学を卒業する段階で求められる能力は、自ら問題を立て、自分独自の答えを提案することにある。本演習ではこのような力を養成し、最終的に卒業論文を執筆するための基礎力を育成する。担当者はメディア（テレビ等のマスメディアから、スマートフォンのようなコミュニケーションメディアを含む）が、社会認識や人間関係に与える影響を教育研究のテーマとしてきた。例えばソーシャルメディアで互いにつながり、ニュースもそのような情報源を通じて知る時代に、人々のものの見方、また人間関係はどのように変化するだろうか。このようなトピック、また関連する領域について学生の関心に基づいてテーマを設定し、学生自らが問題を探求して、最終的に自分なりの答えをレポートにまとめプレゼンテーションを行う。

1期は問題を深めて自らの探求のため必要な知識技術を身につけること、2期は分析の技術習得と共に実際に調査、分析を行って報告することを中心とする。

本演習は原則的に対面で行うことを予定している。ただし開講期間中で遠隔授業に切り替わった場合にはC型により実施する。

【到達目標】

心理学・社会学の視点から、学生が自律的に問いを立て、自ら答えを探る能力、および自らの成果を説得的に表現、プレゼンテーションできる能力の育成

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP2)コミュニケーションの出発点としての身体性を踏まえた他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP3)コミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP5)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

毎回の課題について、全員が（単独で、また共同作業によって）準備を行い資料配付の上で報告する。演習後もオンライン上で可能な限りのフォローを行うのでそれを通じ理解を深める（4時間程度）。

【授業計画】

- 第1回 インTRODクシヨン（1期）
- 第2回 初期テーマ報告
- 第3回 文献・基礎統計収集および文献リスト作成の技法
- 第4回 文献リスト・基礎統計報告(1)
- 第5回 文献リスト・基礎統計報告(2)
- 第6回 文献報告(1)
- 第7回 文献報告(2)
- 第8回 文献報告(3)
- 第9回 文献報告(4)
- 第10回 再設定テーマ報告・調整(1)
- 第11回 再設定テーマ報告・調整(2)
- 第12回 実証調査の技法
- 第13回 調査計画報告(1)
- 第14回 調査計画報告(2)
- 第15回 調査計画報告(3)
- 第16回 インTRODクシヨン（2期）
- 第17回 データ分析技法(1)
- 第18回 データ分析技法(2)
- 第19回 データ分析技法(3)
- 第20回 データ分析技法(4)
- 第21回 データ分析技法(5)
- 第22回 データ分析技法(6)
- 第23回 実査作業と応用データ分析(1)
- 第24回 実査作業と応用データ分析(2)
- 第25回 実査作業と応用データ分析(3)
- 第26回 実査作業と応用データ分析(4)
- 第27回 実査作業と応用データ分析(5)
- 第28回 分析報告(1)
- 第29回 分析報告(2)
- 第30回 演習のまとめ

【評価方法】

演習への参加状況70%、担当報告30%。

毎回の出席が必須であり、その上で積極的な参加や報告成果を評価する。1期・2期それぞれについて合格基準を満たすことを単位認定の基本的前提とする。

報告やコメントについては都度、および事後的にインターネットを通じたフィードバックを行う。

【教科書】

演習内で適宜指示する。

【参考文献】

演習内で適宜指示する。

【特記事項】

演習担当者の開講する他科目、また「社会心理学」「コミュニケーション心理学」およびメディアコース配当各科目は演習内容と関連深いので履修を勧める。3年演習を経て卒論指導希望の場合は調査系ワークショップ科目、特に統計分析関連科目の受講が望まれる（2年から履修可）。

演習計画については、登録学生の人数や興味関心などもふまえて変更する可能性があり、その場合は事前に説明する。

演習（2年）

田村 和人

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

映像制作の基本スキル

【授業の形態・方法・内容】

この授業は、映像制作の基本的なスキルを習得するために、個人あるいはグループでの実技を中心として演習形式で行われます。ただし、その前提となる知識については一部講義のかたちで行います。

スマホで動画を撮影して、それをソーシャルメディアにアップロードすることは日常的な行為ですから、多くの人が映像撮影の経験を持っているでしょう。けれどもこの演習では、ソーシャルメディアの「素人ビデオ」を超える、プロクオリティの映像制作能力の習得を目指します。例えば、企業ホームページ上の広報ビデオといったような映像です。

ネット上のビデオの増大などで、実社会やプライベートで映像を制作する機会は増加しています。この演習で身につけた能力で、「外部の力を借りることなく、自分自身で自信を持って映像を制作できる」ようになってもらいたいと思います。

なお、「自分自身で制作」という観点から、自身のスマホ等で撮影してもらっても構いません。（もちろん、メディア工房にある、より上位の機材を使用することも推奨されます。）

（進め方）

(1)スチール撮影

スチール撮影で「構図」や「光」に意識を集中します。映像は連続したスチールですので、映像制作能力に直結しています。また、スチールなどの静止画像は映像制作にあたっての重要な素材の一つとなります。

(2)映像撮影およびカット編集（シンプルに映像をつなぐこと）

映像制作に着手します。映像をつなぐことで新たなコンテンツの意味や価値が生じることを感じてもらいます。

(3)ミュージックビデオ制作

以降は数名でのグループ活動とし、より高度な編集技法を学んだ後、自分たちの好きな曲を用いてミュージックビデオの作成を行います。これは、音声に労力を費やすことなく映像編集だけに集中できるメリットがあります。

(4)企業広報映像制作

それまではカメラ一台で撮影した映像およびその編集による制作でしたが、ここでは複数台のカメラ映像をスイッチング（映像選択）しながら制作します。架空の企業の広報映像を想定した、いわゆる「硬い」映像の制作を学びます。実社会では最も必要とされる能力かもしれません。写真や図表といった素材準備にも工夫が必要です。

(5)YouTubeでのライブ配信

情報番組、対談、音楽演奏、ドラマ、ダンス、お笑い、いろいろな企画が可能ですが、グループで議論しながら作品を企画・制作してもらいます。

(6)新しい映像

全天球カメラやドローン撮影も経験し、作品作りに応用してもらいます。

本授業は実技を主体とした個別活動およびグループ活動をワークショップ形式で進めます。途中で遠隔授業に切り替わった場合はZoomを利用してC型で実施します。その際は自宅での撮影や編集環境が望まれます。（特に、メモリが8GB以上であること。）ただし、緊急事態宣言下においてもメディア工房は利用できる予定です。

【到達目標】

映像作品を企画・制作・公表できるスキルの獲得を到達目標とします。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 DP3)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

【事前・事後学習】

事前学習として、演習で利用する写真や映像の撮影や企画書の作成が必要となります。（2時間程度）

事後学習として、制作の仕上げ作業、あるいは演習で学んだスキルの高度化を目指した自習が必要となります。（2時間程度）

また、夏休みと春休みには個人制作の作品が課題として出されます。

【授業計画】

第1回 インTRODクシヨン ～授業計画の解説 ～機材やアプリ等の確認

第2回 スチール撮影（構図を工夫する）

第3回 スチール撮影（光を意識する）

第4回 スチール撮影（光と構図、被写界深度、写真加工等）

第5回 映像撮影とカット編集（1）

第6回 映像撮影とカット編集（2）

第7回 映像撮影とカット編集（3）

第8回 映像撮影とカット編集（作品発表）

第9回 グループ活動・ミュージックビデオ制作（1）

第10回 グループ活動・ミュージックビデオ制作（2）

第11回 グループ活動・ミュージックビデオ制作（3）

第12回 グループ活動・ミュージックビデオ制作（作品発表）

第13回 新しい表現・ドローン撮影（1）

第14回 新しい表現・ドローン撮影（2）

第15回 新しい表現・全天球カメラ

第16回 グループ活動・スタジオ撮影・企業広報映像（1）

- 第17回 グループ活動・スタジオ撮影・企業広報映像（2）
- 第18回 グループ活動・スタジオ撮影・企業広報映像（3）
- 第19回 グループ活動・スタジオ撮影・企業広報映像（4）
- 第20回 グループ活動・スタジオ撮影・企業広報映像（5）
- 第21回 グループ活動・スタジオ撮影・企業広報映像（作品発表）
- 第22回 グループ活動・YouTubeライブ配信（1）
- 第23回 グループ活動・YouTubeライブ配信（2）
- 第24回 グループ活動・YouTubeライブ配信（3）
- 第25回 グループ活動・YouTubeライブ配信（4）
- 第26回 グループ活動・YouTubeライブ配信（5）
- 第27回 グループ活動・YouTubeライブ配信（本番1）
- 第28回 グループ活動・YouTubeライブ配信（本番2）
- 第29回 作品のレビューと講評（1）
- 第30回 作品のレビューと講評（2）

【評価方法】

出席を前提として、作品制作への積極的な活動を重視し、総合的に評価します。たびたび実施される作品発表では、作品のテーマや工夫した点などを明確に述べてください（100%）。演習内での作品発表に際し、その都度、フィードバックをします。

【教科書】

適宜指示します。

【参考文献】

映像制作のノウハウに関しては、本も多数ありますし、YouTube上にもすばらしい映像がありますので、適宜参照してください。

【特記事項】

受講にあたって、三脚やストレージなどを購入する必要があります（総額で2万円程度）。また、自宅で映像編集する際は一定のスペックを備えたパソコン（特に、メモリが8Gバイト以上あること）が必要です。

演習 (3, 4年)

田村 和人

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

映像表現とプロデュース作業

【授業の形態・方法・内容】

この授業は、映像制作の基本スキルを習得した者が、より実践的な映像表現を習得することを目的に、個人あるいはグループでの実技を中心として演習形式で行われます。ただし、その前提となる知識については一部講義の形で行います。

さて、よい映像作品を制作するには、綿密な計画をたてる必要があります。明確なテーマやそれに沿った台本はもちろん、スケジュールの策定、機材の準備、撮影クルーの編成なども必要となります。そしてもっとも困難なのは撮影対象の確保です。モノを用意することもありますし、対象がヒトであれば事前に承諾をもらい、スケジュールを調整しなければなりません。また、施設の管理者からのロケーション許可が必要となることもあります。こういった撮影そのもののスキルとはやや異なるマネジメント的な作業も映像制作の重要な要素となります。

また、その映像をホームページ等で公開する場合、映像に含まれる画像や音楽などの著作権や、登場する人の肖像権をクリアしなければなりません。これも大変重要なノウハウとなります。これら、映像制作における「プロデュース」の仕事全体を体得することがこの演習の具体的な目的です。

(進め方)

年度を通して、以下の3つの作品を制作します。

- (1) グループによる「ドラマ制作」
- (2) グループによる「スタジオ制作」
- (3) グループによる「自由テーマ制作」

授業時間内だけで制作を進めることは不可能ですので、打合せやロケーションなどの時間を確保することが必須となります。制作手法については限定しませんが、スイッチング映像やドローン撮影など、各種の撮影技法を適宜、取り入れることが望まれます。さらに、ライブ配信も試したいと考えます。

また、2年次に引き続き、「自分ひとりだけで映像を制作できるようになる」ことがこの演習の目的のひとつですので、グループ制作の際は役割分担を固定せずにオールラウンドプレイヤーとなることを意識することが必要です。

なお、演習で制作された作品を、外部で催される映像コンテストへ出品することも考えられます。

本授業は実技を主体とした個別活動およびグループ活動をワークショップ形式で進めます。途中で遠隔授業に切り替わった場合はzoomを利用してC型で実施します。その際は自宅での撮影や編集環境が望まれます。ただし、緊急事態宣言下においてもメディア工房は利用できる予定です。

【到達目標】

映像作品を企画・制作・公表できるスキルの獲得を到達目標とします。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4) コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP5) 自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

事前学習として、演習で利用する写真や映像の撮影や企画書の作成が必要となります。(2時間程度)

事後学習として、制作の仕上げ作業、あるいは演習で学んだスキルの高度化を目指した自習が必要となります。(2時間程度)

また、夏休みと春休みには個人制作の作品が課題として出されます。

【授業計画】

第1回 ドラマ制作の解説

第2回 グループ制作・ドラマ (1)

第3回 グループ制作・ドラマ (2)

第4回 グループ制作・ドラマ (3)

第5回 グループ制作・ドラマ (4)

第6回 グループ制作・ドラマ (5)

第7回 グループ制作・ドラマ (6)

第8回 グループ制作・ドラマ (7)

第9回 グループ制作・ドラマ (8)

第10回 グループ制作・ドラマ (作品鑑賞～講評)

第11回 スタジオ制作の解説

第12回 グループ制作・スタジオ制作 (1)

第13回 グループ制作・スタジオ制作 (2)

第14回 グループ制作・スタジオ制作 (3)

第15回 グループ制作・スタジオ制作 (4)

第16回 グループ制作・スタジオ制作 (5)

第17回 グループ制作・スタジオ制作 (6)

第18回 グループ制作・スタジオ制作 (7)

第19回 グループ制作・スタジオ制作 (8)

第20回 グループ制作・スタジオ制作 (作品鑑賞～講評)

第21回 最終作品の解説

第22回 グループ制作・自由テーマ（1）

第23回 グループ制作・自由テーマ（2）

第24回 グループ制作・自由テーマ（3）

第25回 グループ制作・自由テーマ（4）

第26回 グループ制作・自由テーマ（5）

第27回 グループ制作・自由テーマ（6）

第28回 グループ制作・自由テーマ（7）

第29回 グループ制作・自由テーマ（8）

第30回 グループ制作・自由テーマ（作品鑑賞～講評）

【評価方法】

出席を前提として、作品制作への積極的な活動を重視し、総合的に評価します。たびたび実施される作品発表では、作品のテーマや工夫した点などを明確に述べてください（100%）。演習内での作品発表に際し、その都度、フィードバックをします。

【教科書】

適宜指示します。

【参考文献】

映像制作のノウハウに関しては、本も多数ありますし、YouTube上にもすばらしい映像がありますので、適宜参照してください。

【特記事項】

演習（2年）

中村 忠司

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

観光学入門

【授業の形態・方法・内容】

2030年には世界で18億人が国際観光を行う時代がやってきます。観光は国や地域社会にとって活性化のシンボルであるとともに、市民生活や環境に大きな負荷がかかるなど社会問題にもなっています。この演習では、社会の様々な側面を観光学の視点で捉えることをテーマにしています。

授業形態は、演習形式で個人研究によるゼミ論作成とグループワークを行います。

最初に観光に関する基礎的な知識を輪読などを通して獲得します。また観光は現場が重要なのでフィールドワーク（参加実費は各自負担）も実施します。フィールドワークではゼミ論を意識し、どのような準備をして行うかや写真撮影でどのようなポイントを押さえていくかなどを具体的に学びます。1期では各自テーマを設定し、研究計画書を作成します。2期では6000字程度のゼミ論を作成します。

授業内の発表については、その都度フィードバックを行います。

<1期>

・書く力は、読書力と深い関係があります。書く力がない人は、たいてい読む力もありません。大学生としてはもちろん、社会人になってからも、読み・書く力がないと困った場面に直面します。授業では、深く読み・書く訓練をします。

・読むという場面では“批判的に読む”ということ意識的に訓練します。書くという場面では、2期に提出してもらうゼミ論作成を前提に、論文のロジカルな構成を理解し、自身の研究計画書を作成してもらいます。

<2期>

・2期では具体的にゼミ論作成に向かって、どのように書いて行けばいいかを学びます。グループワークで問題発見・分析・解決方法を探すためのプロセスを習得します。さらに時間内でポイントを絞った発表ができるようになるためのプレゼン技術を身につけます。

学期途中で遠隔授業に変更された場合、授業はC型（Zoomを使用）で行います。資料配付などは適宜manabaを利用して行います。

【到達目標】

演習を通して観光学の基礎となる知識を身につけます。社会の様々な出来事を観光学の視点で考えられるようになることが目標です。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部/国際コミュニケーション学科 DP2)国境を越えた移動によりグローバル化の進む現代社会における他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 DP3)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

【事前・事後学習】

輪読は事前に対象となる章を読んでおくこと、また発表者のレポートを事前に読むことで授業中に質問できるようになることが求められます。自身のレポートも含め、毎回4時間程度の準備と復習の時間が必要になります。夏休みにはゼミ論の研究計画書・冬休みにはゼミ論が宿題になります。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、各自の自己紹介、観光の視点（1）
- 第2回 ゼミ論のテーマやアプローチの方法、必要な作業および構成を学ぶ
- 第3回 各自ゼミ論テーマの発表（1）
- 第4回 各自ゼミ論テーマの発表（2）
- 第5回 研究計画書(構成、研究の背景、目的、方法など)の重要性を学ぶ
- 第6回 輪読（1）
- 第7回 輪読（2）
- 第8回 輪読（3）
- 第9回 輪読（4）
- 第10回 輪読（5）
- 第11回 輪読（6）
- 第12回 輪読（7）
- 第13回 各自ゼミ論研究計画書の発表（1）
- 第14回 各自ゼミ論研究計画書の発表（2）
- 第15回 まとめ、夏休みの課題
- 第16回 ガイダンス、観光の視点（2）
- 第17回 ゼミ論を書くための1次、2次資料収集の方法を学ぶ
- 第18回 各自夏休みの宿題発表（1）
- 第19回 各自夏休みの宿題発表（2）
- 第20回 論文の構造や先行研究と参考文献の探し方を学ぶ
- 第21回 輪読（8）
- 第22回 輪読（9）
- 第23回 輪読（10）
- 第24回 輪読（11）
- 第25回 輪読（12）
- 第26回 グループワークショップ（1）

第27回 グループワークシヨップ (2)

第28回 各自ゼミ論発表 (1)

第29回 各自ゼミ論発表 (2)

第30回 まとめ、春休みの課題 * 授業計画が変更される場合は事前に知らせます

【評価方法】

演習への参加、発表、課題50%、期末課題の内容50%で総合的に評価します。出席は重視します。

【教科書】

演習内で適宜指示します。

【参考文献】

演習内で適宜指示します。

【特記事項】

- ・スケジュールは、登録人数や演習の進捗度合により変更になる場合があります。ゲスト講師を取り入れる場合があります。また学外のフィールドワークを行う予定です。
- ・観光学に関心のある学生や観光業界に興味を持つ学生向けのゼミです。

演習 (3, 4年)

中村 忠司

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

ツーリズムと社会－観光学の視点で社会の様々な現象を論じる－

【授業の形態・方法・内容】

2030年には世界で18億人が国際観光を行う時代がやってきます。観光は国や地域社会にとって活性化のシンボルであるとともに、市民生活や環境に大きな負荷がかかるなど社会問題にもなっています。この演習では、社会の様々な側面を観光学の視点で論じることをテーマにしています。

授業形態は、演習形式で個人研究による卒論を前提としたゼミ論作成とグループワーク、テキストの輪読を行います。また観光は現場が重要なのでフィールドワーク（参加実費は各自負担）も実施します。フィールドワークでは卒論を意識し、現地での聞き取り調査や資料収集の方法を学びます。2期が始まるまでに各自調査テーマと方法を設定し、1次・2次データを収集します。最終的には文献調査と合わせて12000字程度のゼミ論を作成します。ゼミ論は授業の中で数回プレゼンし、卒論の骨格としていきます。

授業内の発表については、その都度フィードバックを行います。

<1期>

- ・観光に関するテキストの輪読を行います。
- ・論文で必要になる1次データ（定量調査、定性調査）と2次データ（文献調査）の方法を修得し、2期が始まるまでに実際に調査を行い報告書としてまとめていきます。

<2期>

・グループワークで問題発見・分析・解決方法を探すためのプロセスを習得します。さらに時間内でポイントを絞った発表ができるようになるためのプレゼン技術を身につけます。多くの企業では採用面接でグループワークを実施します。役割分担を決めてどのように時間内に進めていくかを授業の中でも学びます。

・2期では具体的にゼミ論作成に向かって、どのように分析し、作成していけばいいかを学びます。

学期途中で遠隔授業に変更された場合、授業はC型（Zoomを使用）で行います。資料配付などは適宜manabaを利用して行います。

【到達目標】

社会の様々な課題を観光学の視点で捉え、分析・解決する施策を考える力を獲得します。また卒業論文を書くための1次・2次データ収集方法を修得します。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

【事前・事後学習】

輪読は事前に対象となる章を読んでくること。また発表者のレポートを事前に読むことで、授業中に質問できるようになることが求められます。自身のレポートも含め、毎回4時間程度の準備と復習の時間が必要になります。夏休みにはゼミ論（中間）作成が宿題になります。冬休みにはゼミ論作成が宿題になります。

【授業計画】

- 第1回 1期 ガイダンス、観光の視点 (1)
2期 ガイダンス、観光の視点 (2)
- 第2回 1期 各自春休みの宿題発表 (1)
2期 各自夏休みの宿題発表 (1)
- 第3回 1期 各自春休みの宿題発表 (2)
2期 各自夏休みの宿題発表 (2)
- 第4回 1期 各自春休みの宿題発表 (3)
2期 各自夏休みの宿題発表 (3)
- 第5回 1期 序論(研究の背景、目的、調査方法、先行研究)の重要性を学ぶ
2期 グループワークショップ (1)
- 第6回 1期 輪読 (1)
2期 輪読 (7)
- 第7回 1期 輪読 (2)
2期 輪読 (8)
- 第8回 1期 輪読 (3)
2期 輪読 (9)
- 第9回 1期 輪読 (4)
2期 輪読 (10)
- 第10回 1期 輪読 (5)
2期 グループワークショップ (2)
- 第11回 1期 輪読 (6)
2期 各自ゼミ論発表 (1)
- 第12回 1期 輪読 (7)
2期 各自ゼミ論発表 (2)
- 第13回 1期 各自調査計画の発表 (1)
2期 各自ゼミ論発表 (3)
- 第14回 1期 各自調査計画の発表 (2)
2期 各自ゼミ論発表 (4)
- 第15回 1期 まとめ、夏休みの課題
2期 まとめ、春休みの課題

* 授業計画が変更される場合は事前に知らせます。

【評価方法】

演習への参加、発表、課題50%、期末課題の内容50%で総合的に評価します。出席は重視します。

【教科書】

演習内で適宜指示します。

【参考文献】

演習内で適宜指示します。

【特記事項】

- ・スケジュールは、登録人数や演習の進捗度合により変更になる場合があります。ゲスト講師を取り入れる場合があります。また学外のフィールドワークを行う予定です。
- ・観光学に関心のある学生や観光業界に興味を持つ学生向けのゼミです。

演習

中村 嗣郎

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

英語を学ぶ、英語で学ぶ

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式で、指定図書を読解、発表などを行います。学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを用いたC型で授業を実施します。

第1学期は、R.J. Palacio 著の Wonder という小説を教材として用います。（映画化されているので予告編を見ると大まかなあらすじがわかるでしょう。『ワンダー 君は太陽』というタイトルです。）英語を中心に学ぶか、英語で内容および関連事項について学ぶかは、受講者のレベルに合わせる予定です。

第2学期は、個人発表を数回おこなってもらいます。そのうち1回は英語に関連した発表にしてください。発表では、自分が知っていることを他の人に上手に伝えることを意識してください。

第1学期の進み具合によっては第2学期の予定が変更になることもあります。

授業内での発表などについて、その都度、フィードバックを行います。

【到達目標】

英語に慣れ、そこから英語以上のものを学ぶことを目標とする。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP5)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

授業で取り上げる部分を事前に読み込んでおくこと。授業の後は音声なども活用し復習しておくこと。（事前・事後学習合わせて授業時間の2倍程度）

【授業計画】

第1回 授業の進め方

第2回 取り上げる Wonder について

第3回 Wonder Part 1

第4回 Wonder Part 2

第5回 Wonder Part 3

- 第6回 Wonder Part 4
- 第7回 Wonder Part 5
- 第8回 Wonder Part 6
- 第9回 Wonder Part 7
- 第10回 Wonder Part 8
- 第11回 本のまとめ
- 第12回 参考サイトを用いた学習および発表(1)
- 第13回 参考サイトを用いた学習および発表(2)
- 第14回 参考サイトを用いた学習および発表(3)
- 第15回 参考サイトを用いた学習および発表(4)
- 第16回 夏休みの課題の簡単な報告
- 第17回 第2学期の授業の進め方
- 第18回 個人発表(受講者 第1群の1回目)
- 第19回 個人発表(受講者 第2群の1回目)
- 第20回 個人発表(受講者 第3群の1回目)
- 第21回 個人発表(受講者 第4群の1回目)
- 第22回 個人発表(受講者 第1群の2回目)
- 第23回 個人発表(受講者 第2群の2回目)
- 第24回 個人発表(受講者 第3群の2回目)
- 第25回 個人発表(受講者 第4群の2回目)
- 第26回 個人発表(受講者 第1群の3回目)
- 第27回 個人発表(受講者 第2群の3回目)
- 第28回 個人発表(受講者 第3群の3回目)
- 第29回 個人発表(受講者 第4群の3回目)
- 第30回 第2学期および1年間のまとめ

【評価方法】

授業への取り組み（発表・質問・議論・課題、その他）を総合的に評価します（100%）。欠席・遅刻が多い場合には単位を与えません。

【教科書】

R.J. Palacio 著 Wonder（電子書籍が安価なのでお勧めします）

【参考文献】

必要に応じて情報を提供します。

【特記事項】

Wonder の英語レベルについては、電子書籍の試し読み（無料）で確認してください。

演習

長谷川 倫子

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

英語圏のメディアや社会を理解する

【授業の形態・方法・内容】

この演習は、新聞・雑誌、ソーシャルメディアや視聴覚教材を用いて、英国とアメリカ社会のマス・メディアとその社会的背景への理解をすすめることを意図しています。異文化理解を通じて日本とは異なる視点に触れ、英語のテキストを読みこなせるようになる事で、入手可能な情報量を拡大し、それぞれの知的関心領域をさらに広げることを目指します。

導入的な部分では講義を行いますが、グループ・ディスカッションやパワーポイントを使ったプレゼンテーションなど、少人数のクラスで、それぞれが課題と取り組み講義に積極的に参加する形態になります。それぞれの決めたテーマに沿って資料収集や調査を実施し、その成果を発表することを中心的な課題としますので、各自の分担に責任を持つことが求められます。またプレゼンテーションには、その準備のためにたくさんの書籍を読む必要もあります。

さらに効果的なプレゼンテーションや、グループワークなどの共同作業にはどのようなコミュニケーション・スキルが必要かも学びます。

遠隔授業になった場合は、manaba（学内ポータルシステム）とZoom（リモート会議システム）を併用して講義を行います。AC併用型の予定です。オンライン・コミュニケーションの比重がますます高くなりそうなリモートワークの時代にも対応できるような指導も行います。

【到達目標】

1. 異文化を理解し、英語圏への関心を深める（異文化理解）。
2. それぞれの英語力をスキルアップする（英語力）。
3. 各自の研究テーマに妥当な情報収集法を選ぶ（情報収集能力）。
4. 資料収集や調査で入手した情報を、整理して分析できる（整理と分析）。
5. 効果的なプレゼンテーションのための最適な手段を選び、その構成を考えて伝える能力を獲得する（プレゼンテーション能力）。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(全学 DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力

(全学 DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力

(全学 DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力

(コミュニケーション学部 DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部/国際コミュニケーション学科 DP2)国境を越えた移動によりグローバル化の進む現代社会における他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 DP3)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

(コミュニケーション学部（2021年度以前入学生） DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP2)コミュニケーションの出発点としての身体性を踏まえた他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP3)コミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP5)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

事前学習：英語力のスキルアップを目指して出された課題を必ず済ませて講義に参加する。

事後学習：講義を通じてわかった各自の改善すべきポイントをそれぞれがフォローすることで、次のステップに進めるようにする。

【授業計画】

第1回 ゼミで何を学ぶか、講義の進め方、日程の確認

第2回 自己紹介：「自分にとっての英語」

第3回 講義：イギリス社会入門

第4回 講義：アメリカ社会入門

第5回 Current Topicを紹介しよう (1)

第6回 Current Topicを紹介しよう (2)

第7回 Current Topicを紹介しよう (3)

第8回 Current Topicを紹介しよう(4)

第9回 Current Topicを紹介しよう(5)

第10回 講義：研究課題を決めるための調査方法入門

第11回 講義：効果的なプレゼンテーションとは？

第12回 ゲストスピーカー：国際人とは？

第13回 講義：アメリカ政治とメディア

第14回 夏休みの宿題の分担と個別年間研究のテーマの決定

第15回 個別年間研究テーマの発表

第16回 後期の研究計画について

第17回 夏休みの課題の発表：アメリカの大統領 (1)

第18回 夏休みの課題の発表：アメリカの大統領 (2)

第19回 夏休みの課題の発表：アメリカの大統領 (3)

第20回 夏休みの課題の発表：アメリカの大統領 (4)

第21回 夏休みの課題の発表：アメリカの大統領 (5)

第22回 映画からみるイギリス社会 (1) 映画でディベート

第23回 映画からみるイギリス社会 (2) 映画でディベート

第24回 ファイリング入門：研究活動と情報の整理

第25回 アカデミック・ライティング入門

第26回 個別年間研究成果の発表（1）

第27回 個別年間研究成果の発表（2）

第28回 個別年間研究成果の発表（3）

第29回 個別年間研究成果の発表（4）

第30回 各自の到達度の確認と次年度への課題の確認

【評価方法】

毎回の出席は当然のこととして、演習への貢献度や参加度（30%）にプレゼンテーションや分担作業、期末論文の完成度等（70%）によって総合的に評価します。

【教科書】

指定しない

【参考文献】

授業中に指示する

【特記事項】

特記事項1：英語圏のメディアに関心がある、英語をもっと学びたい、語学研修や留学を考えている方はもちろん、英語以外の事でも何か目標を持って意欲的に取り組みたいことがある方を歓迎します。

特記事項2：国際人としてのコミュニケーション能力を身に着けるには、まず国語力のスキルアップと自己管理能力から。チュートリアルならではの少人数クラスでおこなうグループ・ワーク、プレゼンテーション、ディベート等を通じてそれぞれが次のステップへのアカデミック・スキルを学びます。

特記事項3：必須ではありませんが、それぞれのレベルを確認し、日ごろの学習活動の目安とするためにもTOEICなど英語の能力を証明することのできる資格試験の受験や語学研修などへの参加はお勧めします。またどう取り組んだらよいかというアドバイスも個別に行います。

特記事項4：ポータルでお知らせをしてレスポンスをお願いすることもありますので必ずチェックして、返信することを習慣にしてください。また、オンラインの講義になっても対応できるよう、ネット環境も整えてください。

特記事項5：日程及び講義の内容は諸事情により、前後することや、変更することがあります。変更などがある場合は必ず事前にお知らせします。

演習

林 剛大

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

自己表現と自己実現のための英語：対話と調整を通じて

【授業の形態・方法・内容】

形態：この授業は演習形式で、グループワークと個人研究を中心に行う。

方法・内容：1・2期を通して英語の学習計画を4つ作成する。最初の計画を立てた後、計画を実行し、振り返り、次の計画を立てるというサイクルを繰り返す。必要に応じて、英語の学習計画、計画実行記録、振り返りの記録の提出が求められる。受講生は各期の終わりには、英語でレポートを書くことが求められる。レポートのフィードバックは各期の最終回に行う。オンライン授業を実施しなければならない状況になった場合、Zoomを用いたC型授業となるが、その場合も、授業計画や評価方法に変更はない。

【到達目標】

この授業を通して英語を使って将来何をしたいか、どのような自分になりたいかについて深く考えられるようになることを目指す。また、各自の目的に合った、英語力を伸ばして行くための自律的学習計画を作成し、それを必要に応じて調整できるようになることも目指す。最終目標としては、ゼミを終えるまでに、教員の支援なしでも自信を持ってそれらができるようになることを目指す。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部/国際コミュニケーション学科 DP2)国境を越えた移動によりグローバル化の進む現代社会における他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 DP3)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP2)コミュニケーションの出発点としての身体性を踏まえた他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP5)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

事前学習：計画実行記録を英語で記載し、英語発表の準備を行う（2時間程度）。

事後学習：各自設定した英語学習に取り組む（2時間程度）。

【授業計画】

- 第1回 1期のオリエンテーション（自己紹介、シラバスの説明）
- 第2回 自己理解と自己実現のための英語について考える
- 第3回 過去の自分と今の自分の関連性について考える
- 第4回 将来のビジョンについて考え、検討する
- 第5回 現時点の英語学習環境について考え、環境の整え方を検討する
- 第6回 英語習得ストラテジーについて考え、将来のビジョンと関連性を見出す
- 第7回 英語学習計画1のデザイン方法（4週間の計画）について話し合い、理解し、作成する
- 第8回 英語学習計画1の1週目について：報告とディスカッション1、英語レポートの書き方の指導1
- 第9回 英語学習計画1の2週目について：報告とディスカッション2、英語レポートの書き方の指導2
- 第10回 英語学習計画1の3週目について：報告とディスカッション3、英語レポートの書き方の指導3
- 第11回 英語学習計画1の4週目について：報告とディスカッション4、英語レポートの書き方の指導4
- 第12回 英語学習計画1の結果発表、ディスカッション、授業内フィードバック
- 第13回 英語学習計画2のデザイン方法と前期レポートの書き方について考え、英語レポートの書き方の指導を行う
- 第14回 英語学習計画2の発表、英語学習計画2のフィードバック、前期レポートの提出
- 第15回 1期のまとめ：前期レポートのフィードバックとディスカッション
- 第16回 2期のオリエンテーションと1期のおさらい
- 第17回 英語学習計画2の結果発表とフィードバック
- 第18回 英語学習を行っている在学生以外の人がどのように英語学習を行っているかについて考えることにより、視野を広げてから、英語学習計画3について考え始める
- 第19回 将来のビジョン、現時点での英語学習環境、英語学習ストラテジーを再検討し、英語学習計画3をデザインする
- 第20回 英語学習計画3を1週間試した後に、英語学習計画3を調整する
- 第21回 英語学習計画3の1週目について：報告とディスカッション1、2期の英語レポートの書き方の指導1
- 第22回 英語学習計画3の2週目について：報告とディスカッション2、2期の英語レポートの書き方の指導2
- 第23回 英語学習計画3の3週目について：報告とディスカッション3、2期の英語レポートの書き方の指導3
- 第24回 英語学習計画3の4週目について：報告とディスカッション4、2期の英語レポートの

書き方の指導 4

第25回 英語学習計画 3 の結果発表、授業内フィードバック、ディスカッション

第26回 英語学習計画 4 のデザイン方法、英語レポートの書き方の指導 5

第27回 英語学習の促進・阻害要因について考える

第28回 英語学習計画 4 を 1 週間試した後に、英語学習計画 4 を調整する

第29回 英語学習計画 4 の発表、ディスカッション、フィードバックを行い、後期レポート提出する

第30回 全体のまとめとフィードバック

【評価方法】

授業内に行われるディスカッションに対する貢献度（20%）

授業中に課された学習課題に対する取り組み（20%）

学習計画と記録（30%）

期末レポート（30%）

【教科書】

特に指定しない

【参考文献】

授業内で英語を活用するライフスタイル（生活や仕事）に関する文献などを紹介する。

【特記事項】

オンライン授業を実施しなければならない状況になった場合、Zoomを用いたC型授業となるが、その場合も、授業計画や評価方法に変更はない。

教員からのメッセージ：

最初から上手に目標設定をし、自己調整をしながら、学習環境を整え、自律的に目標に向かって学ぶことができなくても大丈夫です。それらが上手になるための場としてゼミがあります。ゼミメンバーと共に徐々に成長して行けるよう気楽に持って取り組みましょう。

質問等は気軽にghayashi@tku.ac.jpまでご連絡ください。

演習

町村 敬志

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

都市・空間の現在から社会とメディアの可能性を考える

【授業の形態・方法・内容】

自ら問いを立て、その問いに自分の頭と手足を使って取り組み、自身の答えを提示する力を身に着けることをめざすゼミです。そのため、演習形式により社会学と社会調査の基本的考え方を学ぶとともに、特定の課題について個人ないしグループで探究するプロジェクト型の活動に取り組みます。

第1期の文献講読では、担当者の主要な研究テーマである都市・地域を題材としながら、私たちが暮らす社会の成り立ち、人びとの多様性、困難や格差のかたち、新しい価値や文化を創造する条件、などについて学びます。また、キャンパスを出て街を実際に歩き理解を深める機会も用意したいと思います。

第2期は、ゼミとしての研究プロジェクトを中心に進めるとともに、それに取り組むための調査・研究の技法の基礎について学びます。2023年度は、「現代人にとっての「居場所」」を共通テーマに、「食・空間・メディア」を念頭に各自具体的テーマを決定し、個人研究・発表をおこないます。コメントをもとに内容を改善し、成果をゼミ論文報告書として印刷し、社会に還元することをめざします。

感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、C型(リアルタイム配信される授業に参加する形式)で授業を実施します。

【到達目標】

関心に基づいて自ら問いを立て、分析のための基礎的な知識・方法を修得しながら、研究成果を分かりやすい文章で表現し、説得的に伝えることができるようになることをめざします。卒業論文執筆はもちろん、広く社会で通用する学びの基盤を固めます。これにより、大学卒業以降も自ら自己を鍛え、新しい課題に取り組めるような知の器を作り上げることを重視します。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部/メディア社会学科 DP2)コミュニケーションを支えるメディアの特性と、その組織・企業における展開を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP3)コミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

【事前・事後学習】

講読については事前に指定された箇所を読み、コメント(報告者はレジュメ)を用意することが毎回求められます。発表・論文作成に際しては、図書館ほかでの資料の収集と読み込み、グループによる事前討論、プレゼンテーションや執筆の準備の時間を毎回充てる必要があります。

す。論文について個別フィードバックを行うので、それをもとに改訂する作業を求められます（準備・復習各2時間程度）。

【授業計画】

- 第1回 ゼミへの誘い（演習のねらいと進め方）、自己紹介
- 第2回 知の世界へ分け入る（1）文献を読む、分担決定
- 第3回 知の世界へ分け入る（2）「わたしの〈場所〉論」紹介報告（全員）
- 第4回 文献講読（1）報告者+コメント全員用意（以下、同）
- 第5回 文献講読（2）
- 第6回 調査・研究の技法（1）街歩き
- 第7回 文献講読（3）、街歩きのふりかえり
- 第8回 文献講読（4）・グループ報告
- 第9回 文献講読（5）・グループ報告
- 第10回 文献講読（6）・グループ報告
- 第11回 文献講読（7）・グループ報告
- 第12回 文献講読（8）・グループ報告
- 第13回 前期分の報告書編集、調査・研究の技法（2）情報収集・分析の技術
- 第14回 個人研究に向けて（各自のゼミ論関心発表、討論）
- 第15回 前期のまとめ、夏休み中の課題確認
- 第16回 後期への導入（スケジュール確認）、調査・研究の技法（1）企画書の作り方
- 第17回 各自ゼミ論テーマ・企画書の発表（全員）
- 第18回 ゼミ論テーマの展開、グループ編成、調査・研究の技法（3）インタビューの仕方
- 第19回 ゼミ論進捗報告・素材紹介（1）、グループ討論
- 第20回 ゼミ論進捗報告・素材紹介（2）、グループ討論
- 第21回 ゼミ論の中間発表（序論を書いてみる）（1）コメント
- 第22回 ゼミ論の中間発表（序論を書いてみる）（2）コメント
- 第23回 グループ討論とアドバイス、調査・研究の技法（4）論文を書く
- 第24回 ゼミ論提出・コメント（1）
- 第25回 ゼミ論提出・コメント（2）
- 第26回 ゼミ報告書の編集会議
- 第27回 ゼミ報告書の編集会議、ゼミ論原稿の入稿
- 第28回 調査・研究の技法（5）人に伝える

第29回 ゼミ論発表会

第30回 後期のまとめ、各自報告（次の一步に向けて）

【評価方法】

文献報告担当、毎回のコメントの提出、最終のゼミ論文作成、その他グループ作業への貢献を、計100%として、総合的に評価します。

【教科書】

指定する場合は授業中に指示します。

【参考文献】

町村敬志『都市に聴け——アーバン・スタディーズから読み解く東京』有斐閣
その他、授業中に指示します。

【特記事項】

受講者の関心も踏まえながら、内容や進め方を調整していきます。

演習

松永 智子

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

戦争とメディア：文献講読から論文作成まで

【授業の形態・方法・内容】

「メディア」系、「国際」系、双方の学生が問題意識を持ち寄り、文章と格闘し、議論の汗を流して、研究の楽しさを味わうゼミです。四年次に取り組む卒業研究を充実させるよう、演習形式であなた自身のテーマを探し、研究のイロハを学びます。日頃抱いている疑問を掘り下げたい、「今」を歴史的に考察したい、自分とは異なる他人に興味がある、社会のあれこれについて知識を得、仲間と語り合ってみたい人に向いているでしょう。

まずは文献講読を通して、「おもしろい」卒論とは何か、研究の手法や枠組み、レジュームを使った発表の方法、議論の仕方についての理解を深めます。多彩なゲスト講師との対話や映画・演劇鑑賞、キャンパス外での実習も取り入れ、体験から得る知識や問題意識の涵養も重視します。心がざわめく出会いに恵まれ、「問い」は何かと突き詰める作業こそが卒業研究の醍醐味であり、この過程で身につく対話の姿勢は、就職活動だけでなく生涯の財産となるでしょう。メンバーは異学年構成で、タテのつながりも豊かなのが特徴です。

方法・内容に関して、前期（共通テーマ・インプット中心）／後期（個人研究テーマ・アウトプット中心）の二部構成をとります。共通テーマは毎年更新されるので、在籍ゼミ生は少なくとも二つの議題を経験した上で卒業研究に移行します。

本年度の共通テーマは「戦争とメディア」です。「手元に戦争が届く」現代を理解するべく、関連文献（部分的に英語を含む）を読み込み、メディア史の方法やグローバル化社会における問題の枠組み・切り口について学びます。

後期からは、受講生自らが自由に探求テーマを設定し調べたことを発表します。メンバーからのコメントや教員からのフィードバックを受け、修正しながら、年度末にはレポートとしてまとめてもらいます。このプロセスまるごと「プレ卒論」として、適切な予行演習になることを期待します。

なお、学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを利用したリアルタイム形式（C型）で実施します。

【到達目標】

卒論を書く。それは、わたしのテーマを探り、わたしの言葉をつむぐことです。ゼミの内外で、自分とは異なる他者と出会い、対話や摩擦を通して、わたしを生き直す。その繰り返し・積み重ねが卒論への道程であり、それ自体を楽しめる知的体力を身につけることが目標です。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部/メディア社会学科 DP2)コミュニケーションを支えるメディアの特性と、その組織・企業における展開を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部/国際コミュニケーション学科 DP2)国境を越えた移動によりグローバル化の進む現代社会における他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 DP3)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP2)コミュニケーションの出発点としての身体性を踏まえた他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP3)コミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP5)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

授業時間外の学習・作業を前提とします（各2時間程度）。毎週ゼミで取り上げる文献の予習を基本として、発表担当時には入念なプレゼン準備が必要です。研究調査については、授業外でのグループワークも取り入れています。図書館や自宅などでの読書、調査、執筆に十分な時間を確保してください。

【授業計画】

第1回 顔合わせ・前期の授業計画

第2回 共通テーマに取り組むための導入講義

第3回 文献講読 (1)

第4回 文献講読 (2)

第5回 文献講読 (3)

第6回 ゲスト講師

第7回 文献講読 (4)

第8回 文献講読 (5)

第9回 文献講読 (6)

- 第10回 映画鑑賞
- 第11回 文献講読 (7)
- 第12回 文献講読 (8)
- 第13回 文献講読 (9)
- 第14回 調査実習
- 第15回 前期の振り返り・夏休みの計画
- 第16回 夏休みの振り返り・後期の授業計画
- 第17回 個人研究発表に取り組むための導入講義
- 第18回 学生発表 (1)
- 第19回 学生発表 (2)
- 第20回 学生発表 (3)
- 第21回 ゲスト講師
- 第22回 学生発表 (4)
- 第23回 学生発表 (5)
- 第24回 学生発表 (6)
- 第25回 調査実習
- 第26回 学生発表 (7)
- 第27回 学生発表 (8)
- 第28回 学生発表 (9)
- 第29回 四年生の卒論批評会
- 第30回 個人研究講評・一年間のまとめ

【評価方法】

毎回の出席を前提として、演習への参加状況（文献講読、発表、コメントなど）及び期末最終レポートを総合的に評価（100%）します。

【教科書】

指定する場合は、開講前に連絡します。

【参考文献】

高木徹(2008)『戦争広告代理店』（講談社）

山崎佳代子(2022)『そこから青い闇がささやき』（筑摩書房）

パメラ・ロトナー・サカモト著、池田年穂・西川美樹訳(2020)『黒い雨に撃たれ

て』（Midnight in Broad Daylight）慶應義塾大学出版会
その他、授業中に適宜示します。

【特記事項】

- ・日々の暮らしのなかの気づきを大切にする、好奇心旺盛な人を求めます。
- ・「現代メディア史」「メディア文化論」「ジャーナリズム論」「社会調査ワークショップ」など、ゼミ教員の担当授業の履修を勧めます。

演習

光岡 寿郎

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

現代文化の社会学

【授業の形態・方法・内容】

本演習は、メディア、アート、映像、ファッション、広告等、現代文化を構成する幅広いテーマを社会的な観点から検討し、私たちが生きる社会のありようの一端を理解することを目的としている。とりわけ、担当教員は「映像文化」と「芸術文化」を専門としている。

したがって、本授業は演習形式で実施される。ただし、演習のなかでは、個人研究に加えて、グループワークへの参加も求められる。加えて、授業内では海外の事例も紹介することから、最低限の英語の運用能力も求められる。

なお、コロナウイルスの流行等で遠隔授業に移行する場合には、原則C型（リアルタイムで配信される授業）で行う。

【到達目標】

私たちの日常的なコミュニケーションの基盤となる現代社会の特徴を理解し、そこに現れる問題を発見、解決する力を育む。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部/メディア社会学科 DP2)コミュニケーションを支えるメディアの特性と、その組織・企業における展開を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部/国際コミュニケーション学科 DP2)国境を越えた移動によりグローバル化の進む現代社会における他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 DP3)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP3)コミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP5)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

1年間を通じて必要となる事前・事後学習は期に応じて異なる。1期は文献講読が中心となるため、課題文献の講読および事前・事後レポートに時間を割く必要がある（事前が中心）。夏休みを挟んだグループワーク、2期の個人研究については、それぞれ複数回の発表があるため、個々人で事前・事後の時間を使って準備を進めていくことが求められる。全体として、毎週4時間程度の時間を割く必要がある。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学術文献の読み方
- 第3回 ゼミ論テーマ紹介
- 第4回 文献講読（文献Ⅰ）
- 第5回 文献講読（文献Ⅱ）
- 第6回 文献講読（文献Ⅲ）
- 第7回 文献講読（文献Ⅳ）
- 第8回 研究の進め方
- 第9回 文献講読（文献Ⅴ）
- 第10回 文献講読（文献Ⅵ）
- 第11回 文献講読（Ⅶ）
- 第12回 文献講読（Ⅷ）
- 第13回 グループワーク（課題発表）
- 第14回 グループワーク（テーマ設定）
- 第15回 グループワーク（先行研究の検討）
- 第16回 グループワーク（進捗報告）
- 第17回 グループワーク（中間発表）
- 第18回 グループワーク（内容の再検討・修正）
- 第19回 グループワーク（最終発表）
- 第20回 グループワークのフィードバック
- 第21回 論文の書き方
- 第22回 ゼミ論発表（2年生Ⅰ）
- 第23回 ゼミ論発表（2年生Ⅱ）
- 第24回 ゼミ論発表（2年生Ⅲ）
- 第25回 ゼミ論発表（2年生Ⅳ）
- 第26回 卒論構想発表（3年生Ⅰ）
- 第27回 卒論構想発表（3年生Ⅱ）
- 第28回 卒論構想発表（3年生Ⅲ）
- 第29回 卒論構想発表（3年生Ⅳ）
- 第30回 リフレクション（通年のフィードバック）

【評価方法】

毎回出席することを前提に、ゼミでの議論への積極的参加を重視する。加えて、各期3回程度のプレゼンテーション（年度によって英語の場合あり）、グループワークやゼミ論文への取り組みを総合的に評価する（100%）。

【教科書】

初回の授業で、光岡から文献講読のリストを提案する。受講者と相談のうえ、場合によっては一部差し換えたり、追加したりすることがある。

【参考文献】

高野光平ら編（2018）『現代文化への社会学』北樹出版

伊藤守編（2021）『ポストメディア・セオリーズ』ミネルヴァ書房（特に第二部以降）

【特記事項】

毎年、ゼミに集まった学生の関心に合わせて運営方法については微修正を行うので、シラバスを良く読んだうえで受講を決めること。また、環境が許すかどうかはまだ分からないが、例年は夏休みや春休みに課外活動を行うこともあるので、その際にはスケジュールが調整できることが受講の前提となる。

演習（2年）

南 隆太

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

An Introduction to Intercultural Communication I

【授業の形態・方法・内容】

形態：この授業は演習形式で、個人研究とグループワークを中心に行う。

学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを用いたC型で授業を実施します。

方法：この授業では、演習のテーマに沿って英語で書かれた教材を使い、その内容について発表とグループ・ディスカッションを日本語と英語で行う。毎週の課題へのフィードバックは、授業時間内にグループ毎に行う。

内容：異文化コミュニケーションについての基本を学ぶ。
自分の興味関心のあるテーマを見つける。

【到達目標】

異文化コミュニケーションに関する基本的な知識を修得し、個々のテーマについて英語で読み、英語で議論できるようになる。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部/国際コミュニケーション学科 DP2)国境を越えた移動によりグローバル化の進む現代社会における他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 DP3)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

【事前・事後学習】

事前学習として受講生は毎週、以下のことを行う。

教科書の指定された箇所等の要約レポートの作成と発表準備等。（3時間）

事後学習

毎週の授業で共有した要約の確認（1時間）

※毎週の課題をこなす時間は個人差があり、内容によっては4時間以上必要になることもあり、毎週の授業準備にはかなりの時間をかける必要がある。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 1. Approaching Intercultural Communication
Intercultural Communication: What is it?

第3回 1. Approaching Intercultural Communication
Definitions of culture

- 第4回 1. Approaching Intercultural Communication
Key Points & Counterpoints
- 第5回 2. The Genealogy of Intercultural Communication
Culture
- 第6回 2. The Genealogy of Intercultural Communication
Multiculturalism and Intercultural Communication
- 第7回 2. The Genealogy of Intercultural Communication
Key Points and Counterpoints
- 第8回 招聘講師による講演会 1 (日本語)
- 第9回 3. Language and Culture
Linguistic Relativity
- 第10回 補助教材 1 Rabbit Proof Fence
- 第11回 3. Language and Culture
Linguistic Relativity Applied
- 第12回 3. Language and Culture
Language with a Name
- 第13回 3. Language and Culture
Key Points and Counterpoints
- 第14回 補助教材 2 TV Documentary on Language and Nation
- 第15回 全体の振り返り
- 第16回 Book Report 1 発表とディスカッション
- 第17回 Chapter 4 Nation and Culture
Stereotypes and Banal Nationalism
- 第18回 Chapter 4 Nation and Culture
Intercultural Communication Advice and Globalisation and Transnationalism
- 第19回 Chapter 4 Nation and Culture
Key Points and Counterpoints
- 第20回 Chapter 5 Intercultural Communication in a Multilingual World
Language Proficiency & 'I'm not listening to you!'
- 第21回 Chapter 5 Intercultural Communication in a Multilingual World
The Monolingual Mindset
- 第22回 Chapter 5 Intercultural Communication in a Multilingual World
State Language Regimes
- 第23回 Chapter 5 Intercultural Communication in a Multilingual World
Commercial Language Scheme
- 第24回 A Guest Speaker's Session on Intercultural Communication (in English)

第25回 Chapter 6 Intercultural Communication in a Transnational World
People on the Move & Exclusive Inclusions

第26回 Chapter 6 Intercultural Communication in a Transnational World
Jobs with Accents

第27回 Chapter 6 Intercultural Communication in a Transnational World
Enhancing Access, Key Points and Counterpoints

第28回 Book Report 2

第29回 補助教材2（映画にみる Intercultural Communication）

第30回 1年間のまとめと振り返り（フィードバック）

【評価方法】

毎週の課題（30%）

授業内のディスカッション（30%）

ブックレポート（15%）

学外学修・特別講演会レポート（15%）

最終レポート（10%）

【教科書】

Piller, Ingrid. Intercultural Communication: A Critical Introduction. Edinburgh University Press, 2017.

【参考文献】

池田 理知子『よくわかる異文化コミュニケーション』（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）（ミネルヴァ書房）

授業時に適宜紹介をする。

【特記事項】

- ・毎週の授業での発表・議論を重視するので、準備をしていない学生は欠席扱いとし、欠席が各期で3回を超えると受講を認めないので注意すること。
- ・可能であれば、海外ゼミ研修を実施する。
- ・各期に1度は学外学修あるいは学外講師による特別講演会を行う。学外学修を実施する場合は3000円程度の参加費が必要になることがある。

演習 (3, 4年)

南 隆太

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

An Introduction to Intercultural Communication II

【授業の形態・方法・内容】

形態：この授業は演習形式で、個人研究とグループワークを中心に行う。

学期途中で遠隔授業に切り替わった場合は、Zoomを用いたC型で授業を実施します。

方法：この授業では、演習のテーマに沿って英語と日本語で書かれた教材を使い、その内容について発表とグループ・ディスカッションを日本語と英語で行う。

毎週の課題へのフィードバックは、授業時間内にグループ毎に行う。

内容：異文化コミュニケーションについての基本を学ぶ。

ゼミ論文の研究テーマを見つける。

【到達目標】

異文化コミュニケーションに関する基本的な知識を修得し、個々のテーマについて英語で読み、英語で議論できるようになる。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP2)コミュニケーションの出発点としての身体性を踏まえた他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP5)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

事前学習として受講生は毎週、以下のことを行う。

教科書の指定箇所等の要約レポートの作成と発表準備等。(3時間)

事後学習

毎週の授業で共有した要約の確認(1時間)

※毎週の課題をこなす時間は個人差があり、内容によっては4時間以上必要になることもあり、毎週の授業準備にはかなりの時間をかける必要がある。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 Chapter 7 Intercultural Communication at Work
Globalisation and Intercultural Business Communication & National Cultural Values

第3回 Chapter 7 Intercultural Communication at Work

Multinational Corporations

- 第4回 Chapter 7 Intercultural Communication at Work
Doing Language and Cultural Work & Key Points
- 第5回 A Guest Speaker's Session on Intercultural Communication 1 (in English)
- 第6回 Chapter 8 Intercultural Communication for Sale
Selling Ethno-cultural Stereotypes
- 第7回 Chapter 8 Intercultural Communication for Sale
English for Sale & Globalese: a Global Non-language
- 第8回 Chapter 8 Intercultural Communication for Sale
Key Points & Counterpoints
- 第9回 Chapter 9 Intercultural Romance
Love Goes Global
- 第10回 Chapter 9 Intercultural Romance
Love Makes the World Go Round
- 第11回 Chapter 9 Intercultural Romance
Mail-Order Bride Websites
- 第12回 Chapter 9 Intercultural Romance
Key Points & Counterpoints
- 第13回 補助教材 映画に見るIntercultural Romance
- 第14回 Chapters 7-9のまとめと振り返り
- 第15回 ゼミ論文テーマ発表
- 第16回 Chapter 10 Intercultural Communication in Education
Conflating Class and Culture
- 第17回 Chapter 10 Intercultural Communication in Education
Teacher Expectations
- 第18回 Chapter 10 Intercultural Communication in Education
Erasing Complexity
- 第19回 Chapter 10 Intercultural Communication in Education
Supporting Diversity
- 第20回 Chapter 11 Becoming an Intercultural Mediator
Reinventing a New Common Culture & Cultural Brokering (p. -198)
- 第21回 Chapter 11 Becoming an Intercultural Mediator
Cultural Brokering (p. 198-) & Building Bridges
- 第22回 教科書全体のまとめと振り返り
- 第23回 A Guest Speaker's Session on Intercultural Communication 2 (in English)

第24回 ブックレポート2

第25回 ゼミ論文中間発表

第26回 テーマ研究: Identity

第27回 テーマ研究: The Other

第28回 テーマ研究: Representation

第29回 ゼミ論文発表1 (10分間の発表と質疑)

第30回 ゼミ論文発表2 (10分間の発表と質疑)

【評価方法】

毎週の課題 (30%)

授業内のディスカッション (30%)

ブックレポート (10%)

学外学修・特別講演会レポート (10%)

最終レポート・プレゼンテーション (20%)

【教科書】

Piller, Ingrid. Intercultural Communication: A Critical Introduction. Edinburgh University Press, 2017.

【参考文献】

池田 理知子『よくわかる異文化コミュニケーション』(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ) (ミネルヴァ書房)

授業時間内に適宜紹介をする。

【特記事項】

- ・昨年度で使用した教科書の後半を読みます。
- ・毎週の授業での発表・議論を重視するので、準備をしていない学生は欠席扱いとし、欠席が各期で3回を超えると受講を認めないので注意すること。
- ・可能であれば、海外ゼミ研修を実施します。
- ・各期に1度は学外学修あるいは学外講師による特別講演会を行う。学外学修を実施する場合は3000円程度の参加費が必要になることがあります。

演習

本橋 哲也

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

韓国ドラマのカルチュラル・スタディーズ

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形式でグループワークや個人研究を行うことによって、韓国ドラマと現代の文化的力学の関係をいくつかのキーワードを鍵として探ります。いまやグローバルな文化現象となったドラマ『愛の不時着』をテキストとして、ドラマの各話の精読を映像の鑑賞とともに進め、受講者の発表および議論と、それに対するフィードバックを重視しながら進めます。

状況によって遠隔授業となった場合には、ZOOM利用によるC型授業を行う予定です。

【到達目標】

この科目では、韓国ドラマとカルチュラル・スタディーズに関する基本的な知識および優れた映像作品のありかたについて、テキストの精読を通して中級レベルの専門知識を身につけることを目標とします。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部/国際コミュニケーション学科 DP2)国境を越えた移動によりグローバル化の進む現代社会における他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP2)コミュニケーションの出発点としての身体性を踏まえた他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

【事前・事後学習】

毎回、授業中および予習としてビデオ鑑賞したドラマ作品について、10分程度の研究発表を行うことが求められるので、授業の事前学習として4時間程度が必要となります。さらに事後学習として、作品と社会背景との関係に関する学習が2時間程度必要となります。

【授業計画】

第1回 カルチュラル・スタディーズと韓国ドラマ概説

第2回 『愛の不時着』第1話①

第3回 『愛の不時着』第1話②

第4回 『愛の不時着』第2話①

- 第5回 『愛の不時着』 第2話②
- 第6回 『愛の不時着』 第3話①
- 第7回 『愛の不時着』 第3話②
- 第8回 『愛の不時着』 第4話①
- 第9回 『愛の不時着』 第4話②
- 第10回 『愛の不時着』 第5話①
- 第11回 『愛の不時着』 第5話②
- 第12回 『愛の不時着』 第6話①
- 第13回 『愛の不時着』 第6話②
- 第14回 『愛の不時着』 第7話①
- 第15回 『愛の不時着』 第7話②
- 第16回 『愛の不時着』 第8話①
- 第17回 『愛の不時着』 第8話②
- 第18回 『愛の不時着』 第9話①
- 第19回 『愛の不時着』 第9話②
- 第20回 『愛の不時着』 第10話①
- 第21回 『愛の不時着』 第10話②
- 第22回 『愛の不時着』 第11話①
- 第23回 『愛の不時着』 第11話②
- 第24回 『愛の不時着』 第12話①
- 第25回 『愛の不時着』 第12話②
- 第26回 『愛の不時着』 第13話①
- 第27回 『愛の不時着』 第13話②
- 第28回 『愛の不時着』 第14話
- 第29回 『愛の不時着』 第15話
- 第30回 『愛の不時着』 第16話

【評価方法】

授業内の発表内容の評価（50%）。期末レポート二回（50%）。毎回発表や議論を講評することによって、適宜個別のフィードバックを行います。

【教科書】

本橋哲也『『愛の不時着』論』（ナカニシヤ出版）

【参考文献】

授業中に適宜指示します。

【特記事項】

毎回の授業出席と口頭による意見発表が必須です。

演習（2年）

山下 玲子

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

メディアコンテンツの描写、影響の社会心理学的研究

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形態で行います。本授業の目標は、さまざまなメディアコンテンツが人々の認知、態度、行動に及ぼす影響について、社会心理学的な手法により読み解き、自らが問いを立てて実証的に検証するためのスキルを身に着けることです。まず、社会心理学の基礎的な知識と研究手法を習得します。そして、各自の興味関心に合わせ、グループ単位で研究計画を作成し、メディアコンテンツ（メディアイベントなども含む）の描写および影響について、データ収集と終局的分析を含むレポートを作成します。ふだん何気なく利用している、楽しんでいるメディアコンテンツは、人々にどのような影響を与えているか、その影響はこれまでの自分達の直観的理解と合致している／反するものか、また、メディアコンテンツに描かれる人間像がいかにか社会を反映している／していないか等を、数量的に示すことができるようになるのが最終目標です。なお、遠隔授業実施時には、Zoomを用いた【C型】（リアルタイム）で授業を実施します。

【到達目標】

社会心理学の基礎知識と研究方法を習得すること。身近なメディア素材から自らを取り巻く社会における課題を発見し、分析する視点を養うこと。科学論文を読む力・書く力を身に着けること。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部/メディア社会学科 DP2)コミュニケーションを支えるメディアの特性と、その組織・企業における展開を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部 DP3)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

【事前・事後学習】

各自、テキスト輪読においては事前に読み、ゼミ時に演習問題へ回答を求めます。回答に対しては、各回、授業においてフィードバックとしてコメントを行い、それに基づき議論を行います（準備2時間、回答フィードバック後、復習2時間）。グループ研究では、演習の時間は基本的に各グループの進行状況、成果発表の場となるため、質問紙およびコーディングシートの作成、データ収集、入力、分析、結果報告の準備等は事前・事後学習として行います（各回報告準備2時間、演習後の指示に基づく作業時間2時間）。作成したレポートは添削の上、フィードバックとして返却します。

【授業計画】

第1回 イン트로ダクション、演習の心得、進め方について

- 第2回 各自の興味関心についての発表その1
- 第3回 各自の興味関心についての発表その2
- 第4回 文献講読 1 – 1 (エピソードでわかる社会心理学 1 : 他者を知る)
- 第5回 文献講読 1 – 2 (エピソードでわかる社会心理学 2 : 親しくなる)
- 第6回 文献講読 1 – 3 (エピソードでわかる社会心理学 3 : 深い関係になる)
- 第7回 文献講読 1 – 4 (エピソードでわかる社会心理学 4 : 他者との関わりの中の「わたし」)
- 第8回 文献講読 1 – 5 (エピソードでわかる社会心理学 5 : 親密な関係から生じる葛藤と適応)
- 第9回 文献講読 1 – 6 (エピソードでわかる社会心理学 6 : 親しさの中の「まとまり」と「つながり」)
- 第10回 文献行動 2 – 1 (ゆるレポより、各自の興味関心あるテーマを抜粋 1)
- 第11回 文献講読 2 – 2 (ゆるレポより、各自の興味関心あるテーマを抜粋 2)
- 第12回 文献講読 2 – 3 (ゆるレポより、各自の興味関心あるテーマを抜粋 3)
- 第13回 文献講読 2 – 4 (ゆるレポより、各自の興味関心あるテーマを抜粋 4)
- 第14回 グループ研究準備その1 (興味関心に基づくグループ作成)
- 第15回 グループ研究準備その2 (研究計画の作り方・夏休みの宿題についての説明)
- 第16回 グループ研究その1 (研究計画発表その1)
- 第17回 グループ研究その2 (研究計画発表その2)
- 第18回 グループ研究その3 (データ収集の進捗状況発表)
- 第19回 グループ研究その4 (データ分析の進捗状況発表 1)
- 第20回 グループ研究その5 (データ分析の進捗状況発表 2)
- 第21回 グループ研究その6 (データ分析の書き方)
- 第22回 グループ研究その7 (データ分析結果最終発表)
- 第23回 グループ研究その8 (関連研究論文の探し方)
- 第24回 グループ研究その9 (関連研究論文の発表 1)
- 第25回 グループ研究その10 (関連研究論文の発表 2)
- 第26回 グループ研究その11 (レポートのまとめ方 1 問題と先行研究)
- 第27回 グループ研究その12 (レポートのまとめ方 2 方法と結果)
- 第28回 グループ研究その13 (レポートのまとめ方 3 考察)
- 第29回 グループ研究その14 (レポートのまとめ方 4 参考文献、付録など)
- 第30回 グループ研究 最終プレゼンテーション レポート提出

【評価方法】

演習への参加状況60%、グループ研究への貢献度20%、レポート20%。毎回の出席は必須ですが、参加状況は出席するだけでなく、演習における発表、発言の積極性、準備状況も評価の対象となります。

【教科書】

谷口・西村・相馬・金政編著(2020).「新版 エピソードでわかる社会心理学」北樹出版
978-4-7793-0626-6

岡本・松井・松本編(2021).「ゆるレポ」人文書院 978-4-409-24140-0

【参考文献】

授業にて適宜、指示します。研究法に関する文献含め、年間、3~4冊を予定。

【特記事項】

グループ作業が多くなりますので、異質なメンバーとも最低限のコミュニケーションをとれる学生を希望します。時間外の作業も多くなる可能性があります。

演習 (3, 4年)

山下 玲子

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

メディアの影響の社会心理学的研究

【授業の形態・方法・内容】

この授業は演習形態で行います。本授業は、4年次において卒業論文を作成するための準備段階として、科学的論文を書くための基礎知識およびデータ収集、分析方法について習得します。また、実際にグループ研究として、受講生自らがデータを設定し、数量的データを収集、分析し、その成果をまとめた論文を作成します。自らをとりまく身なモノ・コトを客観視し、量的データとして分析することにより、自身の興味関心を単なる「好き」から、研究対象とするための必要なプロセスを学びます。基本的に、研究テーマは受講生の自由に任せますが、できる限り、メディアコンテンツの社会心理学的分析を意識した内容である方が、有意義な演習の時間を過ごせると思います。各回において、内容の理解度についてチェックテスト（またはレポート）を課し、次回に返却と解説を行います。また夏休みの課題および最終レポートは、添削の上、返却を行います。

なお、遠隔授業実施時には、Zoomを用いた【C型】（リアルタイム）で授業を実施いたします。

【到達目標】

社会心理学の基礎知識と研究方法を習得すること。身近なメディア素材から自らを取り巻く社会における課題を発見し、分析する視点を養うこと。科学論文を読む力・書く力を身に着けること。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP2)コミュニケーションの出発点としての身体性を踏まえた他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP3)コミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP5)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

研究法の学習においては、事前に指定の教科書を読み、内容を十分に理解した上(2時間)で授業に臨み、必ず復習をしてください(2時間)。また、テーマ研究(グループ研究)については、演習の時間は基本的には、作業に関する指示と各グループの進行状況、成果発表の場となるため、質問紙およびコーディングシートの作成、データ収集、入力、分析、結果報告の準備等は、事前・事後学習として行います(各回、発表準備2時間、演習後、指示された作業2時間)。卒業論文の準備の準備では、各自、関連論文を検索し、内容についての発表を行います(自分の発表

の回の場合、論文検索2時間、発表準備2時間。他の受講生の場合には、関連論文の検索2時間）。

【授業計画】

第1回 導入～各自の興味関心についての紹介

第2回 社会心理学的研究法についてその1（テーマの設定の仕方）

第3回 社会心理学的研究法についてその2（質問紙実験について1）

第4回 社会心理学的研究法についてその3（質問紙実験について2）

第5回 社会心理学的研究法についてその4（Web調査について1）

第6回 社会心理学的研究法についてその5（Web調査について2）

第7回 社会心理学的研究法についてその6（内容分析について1）

第8回 社会心理学的研究法についてその7（内容分析について2）

第9回 テーマ研究その1（グループ分け・研究方法の決定）

第10回 テーマ研究その2（先行研究、質問紙／フォーム、コーディングシート等の検討）

第11回 テーマ研究その3（研究計画第1次発表）

第12回 テーマ研究その4（研究計画最終発表）

第13回 テーマ研究その5（質問紙／フォーム・コーディングシート等の最終チェック）

第14回 テーマ研究その6（データ収集の進捗状況発表1）

第15回 テーマ研究その7（データ収集の進捗状況発表2）

第16回 テーマ研究その8（データ分析の方法について1）

第17回 テーマ研究その9（データ分析の方法について2）

第18回 テーマ研究その10（データ分析の結果報告1）

第19回 テーマ研究その11（データ分析の結果報告2）

第20回 テーマ研究その12（論文執筆の方法について1）

第21回 テーマ研究その13（論文執筆の方法について2）

第22回 テーマ研究その14（研究成果 第1次プレゼンテーション）

第23回 卒業論文への準備1（各自の研究テーマ発表1）

第24回 卒業論文への準備2（各自の研究テーマ発表2）

第25回 卒業論文への準備3（各自の関連研究論文発表1）

第26回 卒業論文への準備4（各自の関連研究論文発表2）

第27回 卒業論文への準備5（各自の関連研究論文発表3）

第28回 テーマ研究その15（研究成果 最終プレゼンテーション）

第29回 テーマ研究その16（レポート提出前最終推敲）

第30回 まとめ、レポート提出

【評価方法】

演習への参加状況60%、グループ研究への貢献度20%、レポート20%。

毎回の出席は必須ですが、参加状況は出席するだけでなく、演習における発表、発言の積極性、準備状況も評価の対象となります。グループ研究においては、研究計画、データ分析の結果、最終プレゼンテーションに対して、コメントの形でフィードバックを行い、それに対するリアクションも評価の対象となります。

【教科書】

授業内で適宜、指示します。研究法、統計ソフトに関する教科書2, 3冊予定しています。

【参考文献】

授業内で適宜、指示します。書籍だけでなく学術論文も多く読む予定です。

【特記事項】

グループ作業が多くなりますので、異質なメンバーとも最低限のコミュニケーションをとれる学生を希望します。時間外の作業も多くなる可能性があります。

演習

山田 晴通

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

ポピュラー音楽について考える

【授業の形態・方法・内容】

この授業は、演習形式で行う。すなわちプレゼンテーションを基にした、ディスカッションやディベートに重点が置かれる。

現代社会において、大きな文化現象となっているポピュラー音楽について、その社会的な意義を、コミュニケーション論を踏まえた観点から考えていく。教科書の輪読を中心に、関連する他の論文なども読んでいく。

宿題という形で課題を課すことが多いが、授業の中で全体的な傾向などについて講評する時間をとりフィードバックとする。

この授業は対面授業であるが、感染状況等により大学が遠隔授業に切り替える判断をした場合には、原則としてC型（リアルタイム配信される授業に参加する形式）で授業を実施する。

【到達目標】

最終的には、参加者個々が各自のテーマを設定し、そのテーマに沿ったレポートをまとめて、研究室のサイトからウェブ上に公開することを目指す。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

(コミュニケーション学部（2021年度以前入学生） DP4)コミュニケーションに関わる事柄について、問題の発見・分析・解決をする能力

【事前・事後学習】

授業に臨むにあたっては、主体的にそれぞれの時点での課題を把握し、予習復習に取り組むことが求められる。特に各自のゼミ論についての発表の際には、自身の発表の準備を適切に行なうことはもちろん、普段から他のゼミ参加者の研究テーマにも関心をもち、関連する事項について自ら自習することを心がけ、特に、次回の発表予定者のテーマについては、必ず事前に関連事項についての理解を深めるよう予習に取り組むこと。また、自身の発表を行なった際に、発表の成否についての反省を含めた復習を適切に行なうことはもちろん、他者の発表に際しても、議論の中で提起された論点に付いて、関連する事項について、文献学習、インターネット上の情報収集を含め、復習すること。

事前事後学習に要する時間は、1回の授業に対して概ね4時間を目安に設定しているが、それ以上の時間を要する課題が課される場合もある。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学術論文の探し方、読み取り方1
- 第3回 学術論文の探し方、読み取り方2
- 第4回 共通テキストの輪読1
- 第5回 共通テキストの輪読2
- 第6回 共通テキストの輪読3
- 第7回 共通テキストの輪読4
- 第8回 ゼミ論テーマの選定に向けての議論1
- 第9回 ゼミ論テーマの選定に向けての議論2
- 第10回 以降、参加者の発表を中心とする回について、時間的余裕が生じる場合には、共通テキストの輪読を継続する。
ゼミ論テーマの選定に向けての方針発表1

- 第11回 ゼミ論テーマの選定に向けての方針発表2
- 第12回 ゼミ論テーマの選定に向けての方針発表3
- 第13回 ゼミ論テーマの選定に向けての方針発表4
- 第14回 夏合宿における企画の議論1
- 第15回 夏合宿における企画の議論2
- 第16回 ゼミ論の進捗についての中間発表（1回目）1
- 第17回 ゼミ論の進捗についての中間発表（1回目）2
- 第18回 ゼミ論の進捗についての中間発表（1回目）3
- 第19回 ゼミ論の進捗についての中間発表（1回目）4
- 第20回 ゼミ論の進捗についての中間発表（1回目のやり直し、指摘課題に対する補充発表）
- 第21回 ゼミ論の進捗についての中間発表（2回目）1
- 第22回 ゼミ論の進捗についての中間発表（2回目）2
- 第23回 ゼミ論の進捗についての中間発表（2回目）3
- 第24回 ゼミ論の進捗についての中間発表（2回目）4
- 第25回 ゼミ論の進捗についての中間発表（2回目のやり直し、指摘課題に対する補充発表）
- 第26回 ゼミ論の最終発表1
- 第27回 ゼミ論の最終発表2
- 第28回 ゼミ論の最終発表3

第29回 ゼミ論の最終発表4

第30回 ゼミ論の最終発表（やり直し、指摘課題に対する補充発表）

上記の計画は予定であり、参加者の人数などによって変更を加える場合がある。また、授業時限以外に、学外で研究会などへ参加することが年に数回あるほか、夏季休暇を利用して一週間程度の合宿、ないし、それに代える活動を行う。こうした活動の準備も、できるだけ参加者が自主的に行えるよう指導する。

【評価方法】

平常点評価。ゼミ中の発言や、発表内容、授業中に出す課題やゼミ論（期末のレポート）などを総合的に判断する（100%）

【教科書】

東谷 護・編（2003）『ポピュラー音楽へのまなざし』勁草書房

【参考文献】

授業中に指示する。

【特記事項】

音楽文化論の授業は、既に履修しているか、この演習と並行して履修することが望ましい。また、普段から、自分の関心がある分野の音楽について論じた書籍を読む習慣を付けておくこと。さらに授業内容をふまえて文献を集めて読み、文章にまとめる習慣をつけること。

なお、講義内容等については、追加情報を含め、大学の情報システム「manaba」や、研究室のウェブ・ページで常時情報を提供しているので、こちらも参照すること。

<http://camp.ff.tku.ac.jp/YAMADA-KEN/Y-KEN/classes/default.html>

特に、上記ページからリンクされている諸々の指示に関するページのうち「必読」とされているページは、必ず事前に読んで理解しておくこと。それらのページや、このシラバスに記されている内容を踏まえずに行動したことで、成績評価などに何らかの不利益が生じても、それは自己責任であることを了解した上で受講すること。

演習

ピーター ロス

単位： 4 開講期： 通年 開講年度： 2023

【授業表題】

Japan in English (日本を英語で考える)

【授業の形態・方法・内容】

For centuries, the focus of language education in Japan has been input; i.e. to learn from the outside world. However, this focus ignores the other side of interaction; output. We should not just be learners, but also teachers! In this course students will learn how to explain Japan in English to people from other countries.

This course will cover a series of topics related to Japan and Japanese culture. We will read about each topic, first in Japanese, and then in English, and prepare a bilingual vocabulary list to facilitate discussion. Next, we'll debate the topic in class.

Topics will include areas such as: Government, Modern Cities and Historical Towns, Tea Ceremony, Calligraphy, Kimono, Rakugo, Sumo, Martial arts, Manga and Anime, Electronics, Fukushima, Whales, Japanese vs. American perspectives on WWII, etc..

※この授業は演習形式で、グループワークや個人研究を行います。授業は原則的に対面授業を予定しているが、社会情勢により大学または教員が対面授業の実施困難と判断した場合は、A型（manaba使用）とC型（Zoom使用）を組み合わせた授業を行う。変更がある場合は、manabaのコースニュース等でお知らせする。

【到達目標】

コミュニケーションの前提となる英語を身につけ、自ら発言できるようになり、恥ずかしがらず積極的に他者と対話できる力をつける。自分の考えなどを表現し伝達するコミュニケーション技能を獲得することを目標とする。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(コミュニケーション学部 DP1)コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養

(コミュニケーション学部/メディア社会学科 DP2)コミュニケーションを支えるメディアの特性と、その組織・企業における展開を分析・評価する能力

(コミュニケーション学部/国際コミュニケーション学科 DP2)国境を越えた移動によりグローバル化の進む現代社会における他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 DP3)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP2)コミュニケーションの出発点としての身体性を踏まえた他者や他文化との対話力

(コミュニケーション学部 (2021年度以前入学生) DP5)自らの考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能

【事前・事後学習】

毎回、次に取り扱うテーマの課題が出ます。予習をしっかりと行い、次回の授業で積極的に質問や発言をしやすくなるよう備えましょう。一回の授業に対して授業時間の2倍程度の時間をかけて予習・復習をしてください。

【授業計画】

第1回 ※具体的な授業計画は第一回目の授業で説明する。（あくまでも一例として以下に記す。）

Course Introduction

第2回 Introduction to the first topic

第3回 Readings on the first topic in Japanese

第4回 Construct Japanese Vocabulary List

第5回 Construct English Vocabulary List

第6回 Readings on the main topic in English

第7回 Construct bilingual vocabulary List

第8回 Discussion of the main topic: Part I

第9回 Discussion of the main topic: Part II

第10回 Describing locations: Part I

第11回 Describing locations: Part 2, Giving directions: Part 1

第12回 Giving directions: Part 2

第13回 Student presentations: Group 1

第14回 Student presentations: Group 2

第15回 Student presentations: Group 3

第16回 Introduction to the second topic

第17回 Readings on the second topic in Japanese

第18回 Construct Japanese Vocabulary List

第19回 Construct English Vocabulary List

第20回 Readings on the main topic in English

第21回 Construct bilingual vocabulary List

第22回 Discussion of the main topic: Part I

第23回 Discussion of the main topic: Part II

第24回 Student presentations of the second topic: Part I

第25回 Student presentations of the second topic: Part II

第26回 Student presentations of the second topic: Part III

第27回 Student presentations of the second topic: Part IV

第28回 Student presentations: Group 1

第29回 Student presentations: Group 2

第30回 Student presentations: Group 3

【評価方法】

授業への参加度、課題やプレゼンテーションなどを基に総合的に評価する(100%)。宿題の採点は評価+コメントで行い、学生1人1人にフィードバックをしていきます。(試験はありません)

【教科書】

英和・和英辞典。(プリント配布)

【参考文献】

『Progressive Japanese-English Dictionary』(小学館)、『The Longman Dictionary of Contemporary English』-- 両方ともアプリ版がおすすめです。

【特記事項】

受動的ではなく、自主的かつ、積極的に授業に参加してくれる人が望ましいです。能動的に授業に参加することで発言力が付きます。恥を捨て、たくさん発言してくださいね。Speak Up!!

※授業は原則的に対面授業を予定しているが、社会情勢により大学または教員が対面授業の実施困難と判断した場合は、A型(manaba使用)とC型(Zoom使用)を組み合わせた授業を行う。変更がある場合は、manabaのコースニュース等でお知らせする。